

科目名	古文の基礎		科目ナンバリング	L-JSFU1-00. J	単位数 時間	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	J50003		30時間				
区分	専門教育科目	必修	担当者名	浅瀬石 久仁子			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な古典文法を復習し、中学校や高等学校の古文指導ができる程度の基礎力を身につける。 ・古典作品の現代の日本文化や青森県の郷土文学に与える影響について知り、広く考察する。 <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1に関連している。</p>									
到達目標	<p>①古典文法に関する基礎的事項を身につける。 ②古典作品を正確に書写音読し、口語訳して内容を理解できる。 ③古典の日本文化や青森県の郷土文学への影響について、考察する。</p>									
回	主 題		授業内容・授業時間外の学修					備 考		
第1回	ガイダンス・歴史的仮名遣いと文学史について		授業内容について説明を受け、基礎力診断テストを受ける。古語辞典の使い方を復習し、歴史的仮名遣いと古典文学史について理解する。古語辞典を持参のこと。					講義と演習の組み合わせによる。		
第2回	古典学習の基礎①文法		古典文法について小テストを実施。解説を聞き、古典文法の学習方法について理解する。					講義と演習の組み合わせによる。		
第3回	古典学習の基礎②敬語		古典文法の特に敬語について小テストを実施。解説を聞き、敬語のしくみと訳出の仕方について理解する。					講義と演習の組み合わせによる。		
第4回	説話『宇治拾遺物語』 「児のそら寝」		本文をノートに書写、受講者は辞典を引きながら訳出する。その後、本文と説話文学について解説を聞き理解する。					講義と演習の組み合わせによる。		
第5回	物語『竹取物語』と映画「かぐや姫の物語」		本文をノートに書写、受講者は辞典を引きながら訳出する。その後、ジブリ映画「かぐや姫の物語」と比較、ディスカッションする。					講義と演習の組み合わせによる。		
第6回	随筆『枕草子』と漫画「うた恋」		本文をノートに書写、受講者は辞典を引きながら訳出する。その後、本文と随筆文学、漫画化について解説を聞き理解する。					講義と演習、ディスカッション		
第7回	物語『源氏物語』と漫画「あさきゆめみし」		本文をノートに書写、受講者は辞典を引きながら訳出する。その後、本文と物語文学、漫画化について解説を聞き理解する。					講義と演習の組み合わせによる。		
第8回	軍記物『平家物語』とアニメ「平家物語」		映像資料を見た上で、『平家物語』の世界や当時の貴族の生活について考察し、ディスカッションする。					ディスカッション		
第9回	随筆『方丈記』『徒然草』		本文をノートに書写、受講者は辞典を引きながら訳出する。その後、本文と随筆文学について解説を聞き理解する。					講義と演習の組み合わせによる。		
第10回	物語『伊勢物語』 「芥川」と寺山修司の映画「田園に死す」		本文をノートに書写、受講者は辞典を引きながら訳出する。その後、映像を見て、ディスカッションする。					講義と演習、ディスカッション		
第11回	井原西鶴『武道伝来記』と太宰治「人魚の海」		本文をノートに書写、受講者は辞典を引きながら訳出する。その後、小説と比較して、ディスカッションする。					講義と演習、ディスカッション		
第12回	『古事記』と棟方志功「大和し美し」(詩・佐藤一英)		本文をノートに書写、受講者は辞典を引きながら訳出する。その後、板画と比較して、ディスカッションする。					講義と演習、ディスカッション		
第13回	『百人一首』と和歌の基礎知識		受講者が辞典を引きながら百人一首を訳出する。その後解説を聞き、和歌の基礎知識を学ぶ。					講義と演習の組み合わせによる。		
第14回	まとめ		古典の小テストを解きながら確認を行う。辞書を用いながら古典文法に則って現代語訳できるかを問う。ノート点検を行う。							
第15回	振り返り		小テストの返却を行い、解答を行いながらグループで授業の振り返りを行う。					PBL グループワーク		
評価方法及び評価基準	<p>・毎回の授業のコメントペーパー(30点)・ノート(30点)・小テスト等(40点)</p> <p>文学史や古典文法、重要単語を踏まえながら、正確に訳出できるか、古典について興味関心をもって取り組み、自分なりの考察をして他者と討議できたかを問う。</p>									
課題等	オンライン授業アプリにより適宜指示します。基本的に次回の範囲の本文をノートに書写してこよう。									
事前事後学修	毎日、自分の実力に応じて予習と復習をすること。特にすらすら音読ができるように練習してこよう。									
教材教科書参考書	適宜、授業プリントを配布する。必ず手持ちの古語辞典を持参すること。(紙の辞書を推奨する)。なお、高校時代に使用した古文の文法書や国語便覧があれば、持参されたい。									
留意点	本授業用の古文専用ノートを一冊準備すること。(B5・30枚程度)									

科目名	漢文の基礎		科目ナンバリング	L-JSFU1-01. J	単位数 時間	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	J50004		30時間				
区分	専門教育科目	必修	担当者名	浅瀬石 久仁子			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>・漢文の基礎事項を確認しながら、中学校や高等学校レベルの基本的漢文を習得する。・中世から現代まで、漢文学が日本や郷土の文化や文学に与えた影響について知り、広く考察する。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1に関連している。</p>									
到達目標	<p>①漢詩文に関わる文法事項を身につける。</p> <p>②漢詩文を正確に書写音読、口語訳して内容を理解できる。</p> <p>③漢詩文の日本文学や文化、特に郷土文学や文化への影響について知識と理解を深める。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授業内容・授業時間外の学修					備 考		
第1回	ガイダンス・漢字について		授業内容について説明を受け、漢和辞典の使い方と、漢字の基礎的事項について学ぶ。漢和辞典を持参のこと。					講義と演習の組み合わせによる。		
第2回	漢文の基礎①（訓読と書き下し文のルール）		漢文の学習方法を知り、白文、書き下し文のルールについて解説を聞き、実際に書写や音読を体験する。					講義、演習、グループワークの組み合わせによる。		
第3回	漢文の基礎②（重要句型の確認）		白文、訓読文、書き下し文について復習し、漢文の重要句型を学ぶ。					講義、演習、グループワークの組み合わせによる。		
第4回	故事・寓話① 矛盾・杞憂		受講者は本文をノートに白文で書写し、書き下し、漢和辞典を使って口語訳し、音読する。					講義、演習、グループワークの組み合わせによる。		
第5回	故事・寓話② 塞翁馬		受講者は本文をノートに白文で書写し、書き下し、漢和辞典を使って口語訳し、音読する。					講義、演習、グループワークの組み合わせによる。		
第6回	漢文と郷土作家① 太宰治と漢詩文		太宰治の短編小説「清貧譚」と、その原作「聊齋志異」の「黄英」の一部を音読し、口語訳する。					講義、演習、グループワークの組み合わせによる。		
第7回	漢詩① 漢詩の基礎		漢詩と唐詩について、歴史と基本的知識を習得する。漢文の基礎知識の復習をする。					講義、演習、グループワークの組み合わせによる。		
第8回	漢詩② 李白と杜甫		漢詩をノートに白文で書写し、書き下し文、漢和辞典を使って口語訳し、音読する。					講義、演習、グループワークの組み合わせによる。		
第9回	漢文と郷土作家② 寺山修司と漢詩文		寺山修司の「幸福が遠すぎたら」と于武陵の「勸酒」を音読、比較してディスカッションする。					講義、グループワーク、ディスカッション		
第10回	ねぶたと漢文①史話「史記」		「史記」の「四面皆楚歌」を書き下し文、口語訳し、Wi-Fiに接続してねぶたやサブカルチャーへの影響等について調べ、考察する。					講義、グループワーク、ディスカッション		
第11回	ねぶたと漢文②史話「三国志」		「三国志」の「赤壁の戦い」を書き下し文、口語訳し、Wi-Fiに接続してねぶたやサブカルチャーへの影響等について調べ、考察する。					講義、グループワーク、ディスカッション		
第12回	諸子百家「論語」と「老子」		「論語」と「老子」を口語訳し、中国思想の諸子百家や儒教と道教について基本的知識を習得する。					講義、演習、グループワークの組み合わせによる。		
第13回	文章「雑説」		「雑説」を白文で書写し、書き下し、漢和辞典を使って口語訳し、音読する。					講義、演習、グループワークの組み合わせによる。		
第14回	漢文と郷土作家③ 陸羯南と漢詩文		日本漢文について知る。陸羯南の漢詩を白文で書写し、書き下し、口語訳して音読し、その内容について討議する。					講義、グループワーク、ディスカッション		
第15回	まとめと振り返り		講義内容を復習し、漢文の基礎的知識が身につけているか相互評価によって確認する。					PBL グループワーク		
評価方法及び評価基準	<p>・毎回の授業のコメントペーパー（30点）・ノート（30点）・小テスト等（40点）</p>									
課題等	オンライン授業アプリにより適宜指示します。基本的に次回の範囲をノートに白文で書写してこよう。									
事前事後学修	毎回、各自の実力に応じて予習と復習をすること。特にすらすら音読ができるように練習してこよう。									
教材教科書参考書	適宜、授業プリントを配布する。必ず手持ちの漢和辞典を持参すること。（紙の辞書を推奨する）。なお、高校時代に使用した漢文の文法書や国語便覧があれば、持参されたい。									
留意点	本授業用の漢文専用ノートを一冊準備すること。（B5・30枚程度）									

科目名	日本語学概論 A		科目ナンバリング	L-JSLA1-00. JN	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	J51000		30時間				
区分	専門教育科目	必修	担当者名	今村 かほる			授業 形態	講義	単独	
	日本語教員	必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>日本語学学習の基礎として概観し、必要な知識を身につける。また、他の専門科目の基礎科目でもある。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-2に関連している。</p>									
到達目標	日本語研究の基礎を理解し、正確な基礎知識を習得する。特に、世界の中の日本語 音声・音韻 文字表記 語彙・意味について理解する。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	講義の進め方・評価についてのガイダンス		日本語を言語として学問的にとらえるための手順・進め方							
第2回	世界の中の日本語 1 言語の特徴		母語としての日本語を世界の言語の中で位置づける							
第3回	世界の中の日本語 2 日本語と国語		母語としての日本語と国語の共通点と相違点							
第4回	世界の中の日本語 3 日本語を取り巻く事情		言語や文化とそれを取り巻く環境・社会的背景・歴史							
第5回	日本語の音声・音韻 1 音声器官と発音		音声器官と日本語の音節に関する発音に関する基本的知識							
第6回	日本語の音声・音韻 2 単音と音節・拍		音声・音韻の単位としての単音・音節・拍の概念の理解							
第7回	日本語の音声・音韻 3 音韻史		日本語の歴史における音韻変化の歴史							
第8回	日本語の音声・音韻 4 アクセントとイントネーション		アクセントとイントネーションの基本知識						グループワーク	
第9回	日本語の文字・表記 1 世界の文字		世界の文字の中で日本語の表記と文字を位置づける							
第10回	日本語の文字・表記 2 漢字・仮名		仮名と漢字の成立の歴史							
第11回	日本語の文字・表記 3 ローマ字・正書法		ローマ字導入の歴史と現代語の表記法							
第12回	日本語の語彙・意味 1		語と語彙体系							
第13回	日本語の語彙・意味 2		語種							
第14回	日本語の語彙・意味 3		意味とは何か							
第15回	日本語の語彙・意味 4		意味の構造							
評価方法及び評価基準	世界の中の日本語・音声音韻・文字表記・語彙意味のまとめりに小テストまたはレポートを科す。最後に全体を範囲とした試験を実施する。その他、講義中の課題に対する発表について加点する。									
課題等	授業内容に基づき、調べ学習や内省による用例調査など「問題解決型」の課題を科す。									
事前事後学修	参考文献・参考URLを講義時に指示するので、参考にする。1週間に3時間程度を目安に。									
教材教科書参考書	沖森拓也他著『図解日本語』三省堂 ISBN978-4-385-36242-7 と プリントを配布。									
留意点	試験は論述式とし、具体例を伴う説明を重視する。問題解決型の課題もあるため、図書館・WEBでの調べ学習を中心としたアクティブラーニングを取り入れている。									

科目名	日本語学概論B		科目ナンバリング	L-JSLA1-01. JN	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	J51001		30時間				
区分	専門教育科目	必修	担当者名	今村 かほる				授業 形態	講義	単独
	日本語教員	必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>日本語学学習の基礎として概観し、必要な知識を身につける。また、他の専門科目の基礎科目でもある。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-2に関連している。</p>									
到達目標	日本語研究の基礎を理解し、正確な基礎知識を習得する。特に、文法、待遇表現、方言、日本語教育などについて理解する。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	講義の進め方・評価についてのガイダンス		日本語を言語として学問的にとらえるための手順・進め方							
第2回	日本語の文法 1		文法と文法学説							
第3回	日本語の文法 2		学校文法とは							
第4回	日本語の文法 3		形態論と統語論							
第5回	日本語の文法 4		態、相、時制							
第6回	日本語の文法 5		敬語、待遇表現						グループワーク	
第7回	日本語史1		日本語の歴史—古代編							
第8回	日本語史2		日本語の歴史—近代編							
第9回	日本語の方言 1 社会方言		社会における方言 属性差とことば							
第10回	日本語の方言 2 方言と共通語		方言と標準語・共通語の歴史 国語教育との関連							
第11回	日本語の方言 3 地域方言		方言と方言区画・地域によることばの違い						グループワーク	
第12回	日本語研究の諸相 1		危機言語							
第13回	日本語研究の諸相 2		外国語としての日本語							
第14回	日本語研究の諸相 3		語用論、認知言語学、対照言語学							
第15回	まとめ		講義の総括							
評価方法及び評価基準	日本語の文法・敬語・方言・日本語研究の諸相のまとめりに小テストまたはレポートを科す。									
課題等	授業内容に基づき、調べ学習や内省による用例調査など「問題解決型」の課題を科す。									
事前事後学修	参考文献・参考URLを講義時に指示するので、参考にする。1週間に3時間程度を目安に。									
教材教科書参考書	沖森拓也他著『図解日本語』三省堂 ISBN978-4-385-36242-7と プリントを配布。									
留意点	試験は論述式とし、具体例を伴う説明を重視する。問題解決型の課題もあるため、図書館・WEBでの調べ学習を中心としたアクティブラーニングを取り入れている。									

科目名	日本語音声学		科目ナンバリング	L-JSLA1-02. UJN	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	B52006		30時間				
区分	専門教育科目	選択	担当者名	今村 かほる				授業 形態	講義	単独
	教員免許・日本語教員	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 日本語学の基礎科目として、日本語の音声学的特徴の理解と実践する 日本語の音声的特徴を、国際音声学協会の国際音声字母を用いて理解する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>日本語の母音を基本母音との比較において理解し、実践できる。 日本語の子音を、国際音声字母との関連において理解し、実践できる。 国語教員・日本語教師の資格科目でもあり、理論と実践の両面を身につける。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修					備考	
第1回	講義の進め方・実技試験についてのガイダンス			理論だけでなく、講義中に実技も行うため、機器の操作の慣れる						
第2回	音声と音声学			日本語の音声と音声学の学問の基礎を理解する						
第3回	単音と音節			音声の単位について学ぶ						
第4回	子音と母音、国際音声字母			音声学の基礎用語の理解と音声記号の理解						
第5回	基本母音			基本母音とは何かを学ぶ						
第6回	基本母音（実技）			第一次基本母音の発音と聞き分けの実技					実習	
第7回	日本語の母音と基本母音（実技）			基本母音を使って日本語の母音を説明するとともに、その聞き分けをする。実技試験。					実習	
第8回	日本語の子音			国際音声記号と日本語の子音カ行・ガ行						
第9回	日本語の子音			国際音声記号と日本語の子音サ行・ザ行・タ行・ダ行						
第10回	日本語の子音			国際音声記号と日本語の子音ナ行・ハ行・バ行・ナ行						
第11回	日本語の子音			国際音声記号と日本語の子音ラ行・ワ行・ヤ行						
第12回	音節と拍			拍（モーラ）と音節（シラブル） 特殊拍						
第13回	アクセント			アクセントとイントネーションの基本知識と実践					実習	
第14回	日本語のアクセントとイントネーション、ポーズ、プロミネンス			日本語の音調					実習	
第15回	日本語の子音・アクセント（実技）			外国語としての日本語 学習者の発音の聞き分け。実技試験。						
評価方法及び評価基準	<p>試験（筆記と実技）80％・講義時のコメント20％ 基本的事項が身についているかどうかを問う筆記試験のほか、音声技術に関する実技試験を実施する。</p>									
課題等	適宜指示します。アクティブラーニングを導入している。									
事前事後学修	web教材を利用し、実技試験の自習練習をする。1週間に3時間程度を目安に。									
教材教科書参考書	齋藤純男『日本語音声学入門』三省堂 ISBN4-385-34588-0									
留意点	LL教室を使用する都合により、履修者を上限50名とする。									

科目名	日本語文法論 A		科目ナンバリング	L-JSLA2-03. UJN	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	J51002		30時間				
区分	専門教育科目	選択	担当者名	藁科 勝之			授業 形態	講義	単独	
	教員免許	選択必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>テーマ：現代日本語の文法 文法研究の基本を中心に、用語と概念、文法的考え方について、具体例に即して考える。 あわせて、過去の文法研究についてもできるだけ触れ、その歴史的経緯も紹介することによって文法研究の関心を喚起する。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>(1) 文の基本的構造を説明できる。 (2) 文法的カテゴリーとその内容を説明できる。 (3) 具体的な文について、その構造を文法的に説明できる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	はじめに			講義の進め方、評価の仕方				講義資料配付（含次回分）以下同様。		
第2回	文の基本構造			文とは何か 文の構造と表現の形				講義・解説		
第3回	主語			ハとガの違い ガの用法				講義・解説		
第4回	補語			補語、修飾語				講義・解説		
第5回	述語の構造			文の成分 文法的カテゴリー				講義・解説		
第6回	ヴォイス			受け身、使役、自発				講義・解説		
第7回	アスペクト（1）			アスペクト形式概観				中間レポート・課題提示		
第8回	アスペクト（2）			アスペクト各論				講義・解説		
第9回	テンス			タの問題				反転学習		
第10回	モダリティ（1）			モダリティ概観				講義・解説		
第11回	モダリティ（2）			モダリティ各論				反転学習		
第12回	助詞（1）			助詞の種類				講義・解説		
第13回	助詞（2）			とりたて助詞				反転学習		
第14回	体言—代名詞			コソアドとは。授業テーマに関する各自の課題設定				講義・解説		
第15回	まとめ			授業の総括						
評価方法及び評価基準	<p>2/3以上の出席を条件として、 (1) 中間レポート課題：授業の理解度を測る。課題に対して適切に調査・考察し、記述しているか（30%）。 (2) 定期試験：授業内容の理解度を問う（70%）。 なお、中間レポートの評価には、ルーブリック評価を用いる。</p>									
課題等	レポート等は、チェック、コメントを付して随時返却する。									
事前事後学修	毎回の授業時に、次回分の講義資料も含めて配布するので、当該授業時の事後学習とともに、次回分の事前学習を進めること。1週間に3時間程度の学修を要する。									
教材教科書参考書	特定の教科書は用いない。 講義資料を印刷配布する。 また参考書・参考文献等は、授業時に随時紹介する。									
留意点	授業時に紹介した参考書等をできるだけ読むこと。									

科目名	日本語文法論B		科目ナンバリング	L-JSLA2-04. UJN	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
	科目コード	J51003		30時間						
区分	専門教育科目	選択	担当者名	藁科 勝之			授業 形態	講義	単独	
	教員免許	選択必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>テーマ：近世語の文法・語法・表現 江戸時代の言語、表現、文化を勉強することは、日本の言語・文化の精髓を知ることにつながる。 今期は、近世語の文法、語法や表現法を、さまざまなジャンルの言語作品を基に、具体的に把握する。 それらを現代日本共通語と比較して、どこが、どのように、どのくらい違っているかを考えてみる。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>近世の言語資料にはどのようなものがあるか、その概要を説明できる。 上方語と江戸語の違いが理解できる。 表現の方法について、近世語の用法と現代語との違いが分かる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
第1回	はじめに—日本語の歴史と近世		江戸時代の言語は日本語史の中でどのような位置かを学ぶ。					講義資料配付（含次回分）以下同様。		
第2回	近世の言語資料		江戸時代の言語資料にはどのようなものがあるか、その全体像、ジャンルなどを紹介する、					講義・解説		
第3回	中世から近世へ		・断本について ・『きのふはけふの物語』の読解および語法と表現					講義・解説		
第4回	浄瑠璃		近松作品から—「曽根崎心中」の語法と表現					講義・解説		
第5回	浮世草子		西鶴作品から—『西鶴諸国ばなし』					講義・解説		
第6回	浮世草子		続き—『万の文反古』と候文					講義・解説		
第7回	読本前期		中国近世小説の移入と其の影響					中間レポート・課題提示		
第8回	仮名草子		『伽婢子』を読む					反転学習		
第9回	読本（1）		秋成作品から—『兩月物語』の文章表現					講義・解説		
第10回	読本（2）		続き					反転学習		
第11回	滑稽本		『東海道中膝栗毛』の言葉					講義・解説		
第12回	歌舞伎脚本（1）		鶴屋南北作品から—『東海道四谷怪談』のことは					講義・解説		
第13回	歌舞伎脚本（2）		続き					反転学習		
第14回	続き		身分差と言葉使い					講義・解説		
第15回	まとめ		近世語の文法・語法の整理							
評価方法及び評価基準	<p>3分の2以上の出席を前提として： 中間レポート40%、および最終試験60%を総合して評価する。 中間レポートは、与えられた作品の文章をきちんと読解できているかで評価される。 なお、中間レポートの評価には、ルーブリック評価を用いる。</p>									
課題等	レポート等は、チェック、コメントを付して随時返却する。									
事前事後学修	毎回の授業時に、次回分の講義資料も含めて配布するので、当該授業時の事後学習とともに、次回分の事前学習を進めること。1週間に3時間程度の学修を要する。									
教材教科書参考書	資料は配布する。 参考書、参考文献等は、授業時に随時紹介する。									
留意点	授業で扱う作品は、現代語訳でもよいので、事前にその内容を把握しておくこと。									

科目名	日本語史 A		科目ナンバリング	L-JSLA2-05. UJN	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	J51004		30時間				
区分	専門教育科目	選択	担当者名	藁科 勝之			授業 形態	講義	単独	
	教員免許	選択必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>テーマ：日本語音韻史 現代日本語の発音は、千年余の間はかなり変化してきた。 その音声・音韻の歴史を、奈良時代から資料に基づいて近現代までを俯瞰する。 そして、音韻がなぜ変化するのか、その理由を考える。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>(1) 音声と音韻の違いを説明できる。 (2) 母音の数の変化の概要を説明できる。 (3) 子音の音声の変遷とその理由を説明できる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	はじめに			音価、音声と音韻 音韻史の資料				講義資料配付（含 次回分）以下同様。		
第2回	上代の音韻（1）			奈良時代語の資料 上代特殊仮名遣いについて				講義・解説		
第3回	上代の音韻（2）			上代特殊仮名遣いと語義や文法との関係				講義・解説		
第4回	中古の音韻（1）			あめつちの歌				講義・解説		
第5回	中古の音韻（2）			ために歌				講義・解説		
第6回	中古の音韻（3）			いろは歌 音図（五十音図）				講義・解説		
第7回	中古の音韻（4）			音韻と表記—仮名とは				中間レポート・課題 提示		
第8回	中世前期の音韻			母音の変遷、拗音、ハ行転呼音				講義・解説		
第9回	中世後期の音韻			キリシタン資料の価値				反転学習		
第10回	近世の音韻			近世音韻史の資料				講義・解説		
第11回	近世の音韻			子音の音価 四つ仮名、ハ行音の歴史				反転学習		
第12回	近世の音韻			母音、長音、音便、拗音				講義・解説		
第13回	近代の音韻			幕末から明治へ				反転学習		
第14回	現代の音韻			近現代の音声と音韻				講義・解説		
第15回	まとめ			日本語音韻の変遷						
評価 方法及び 評価 基準	<p>2/3以上の出席を条件として、</p> <p>(1) 中間課題レポート：授業の理解度を測る。課題に対して適切に調査・考察し、記述しているか（30%）。 (2) 定期試験：文の構造、文法的カテゴリー等に関する授業内容の理解度を問う（70%）。 中間レポートの評価には、ルーブリック評価を用いる。</p>									
課題 等	レポート等は、チェック、コメントを付して随時返却する。									
事前事後 学修	毎回の授業時に、次回分の講義資料も含めて配布するので、当該授業時の事後学習とともに、次回分の事前学習を進めること。1週間に3時間程度の学修を要する。									
教材 教科書 参考書	特定の教科書は用いない。 講義資料を、印刷配布する。 また参考書は、授業時に随時紹介する。									
留意 点	授業時に紹介した参考書等をできるだけ読むこと。									

科目名	日本語史B		科目ナンバリング	L-JSLA2-06. UJN	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
	科目コード		J51005			30時間				
区分	専門教育科目	選択	担当者名	藁科 勝之			授業 形態	講義	単独	
	教員免許	選択必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>テーマ：日本語の歴史</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語の変遷の様相の全体像を学ぶ。 ・古代から近代までを扱う。 <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>ことばが変化する場合の、その原因・理由を説明できる。</p> <p>なぜ、変化するのか、変化の根底にあるものを理解する。</p> <p>現代語の事象の根拠が過去の日本語にあることを学ぶ。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
第1回	はじめに		日本語史を学ぶ意義					講義資料配付（含次回分）以下同様。		
第2回	日本語史の区分		世界の中における日本語。日本語の系統					講義・解説		
第3回	上代語（1）		文字・表記、漢字の位置					講義・解説		
第4回	上代語（2）		文法、語彙。中央と地方					講義・解説		
第5回	中古語（1）		文字・表記。仮名の創始の意義					講義・解説		
第6回	中古語（2）		文法。和文の成立。					講義・解説		
第7回	中古語（3）		語彙。和文語と漢文訓読語					中間レポート・課題提示		
第8回	中世語（1）		院政鎌倉期。武士の台頭とことば					講義・解説		
第9回	中世語（2）		室町期。口語資料					反転学習		
第10回	中世語（3）		近代語へ。下剋上とことば					講義・解説		
第11回	近世語（1）		上方語の世界					反転学習		
第12回	近世語（2）		江戸語の世界					講義・解説		
第13回	近世語（3）		江戸文化と言語					反転学習		
第14回	近代語		幕末から明治					講義・解説		
第15回	総括		日本語の変遷のまとめ							
評価方法及び評価基準	<p>3分の2以上の出席を前提として、</p> <p>(1) レポート評価30%</p> <p>(2) 期末試験70%（各時代の言語の特徴—文法、語彙に関する知識・理解度を問う）</p> <p>なお、レポート評価には、ルーブリック評価を用いる。</p>									
課題等	レポート等は、チェック、コメントを付して随時返却する。									
事前事後学修	毎回の授業時に、次回分の講義資料も含めて配布するので、当該授業時の事後学習とともに、次回分の事前学習を進めること。1週間に3時間程度の学修を要する。									
教材教科書参考書	特定の教科書は用いない。 講義資料を印刷・配付する。 参考文献等は、授業時に随時紹介する。									
留意点	授業時に紹介する複数の参考書を読んで、日本語の歴史に関する知識を得るようにすること。									

科目名	現代日本語学入門		科目ナンバリング	L-JSLA2-07. J	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	J51010		30時間				
区分	専門教育科目	必修	担当者名	今村 かほる			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 現代語研究の基礎科目 日本語学（現代語・口語）の基本的な考え方について、学生の身近なテーマに基づいて学ぶ。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-2に関連している。</p>									
到達目標	日本語学の基本的な考え方と基本文献を理解する。図書館の使い方を理解する。レジュメの作り方、発表の仕方などプレゼンテーションの能力を高める。									
授 業 計 画										
回	主 題		授業内容・授業時間外の学修					備 考		
第1回	前期講義・演習の進め方・評価についてのガイダンス		講義の進め方・グループワークとその準備および評価について理解する							
第2回	学術研究		学術研究の基本的な流れを知る							
第3回	入門日本語学とは		日本語学という学問の基礎を知る							
第4回	大学生と図書館		知の入り口としての図書館					グループワーク、アクティブラーニング		
第5回	学術研究のための図書館		日本語学研究のための基本文献ガイダンス							
第6回	現代語研究（1）		現代語研究の分野と方法 文献							
第7回	現代語研究（2）		現代語研究の分野と方法 フィールドワーク							
第8回	テーマ別調査		現代語課題別グループワーク 調べる					グループワーク、アクティブラーニング		
第9回	テーマ別調査		現代語課題別グループワーク まとめる					グループワーク、アクティブラーニング		
第10回	発表の準備		発表の手順の確認							
第11回	プレゼンテーション（1）		グループ発表					グループワーク、アクティブラーニング		
第12回	プレゼンテーション（2）		グループ発表					グループワーク、アクティブラーニング		
第13回	プレゼンテーション（3）		グループ発表					グループワーク、アクティブラーニング		
第14回	プレゼンテーション（4）		グループ発表					グループワーク、アクティブラーニング		
第15回	総括		現代語研究の意義							
評価方法及び評価基準	講義時のコメント10%・発表50%・質疑20%・提出物20% 評価は発表の手順・形式を守ること、論理性を重視する。その他、質疑・応答等の発言も重視する。									
課題等	適宜指示します。どの課題にするかは、希望調査を経て、希望者が多ければ抽選になる場合もある。									
事前事後学修	調べ学習をするため、週3時間程度必要。									
教材教科書参考書	プリント使用。ビッグデータを活用するためのURL等を指示する。									
留意点	発表および資料はICT活用をする。パワーポイントを用いて作成することを原則とする。グループワーク、アクティブラーニングを導入している。									

科目名	古典日本語学入門		科目ナンバリング	L-JSLA2-08. J	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	J51011		30時間				
区分	専門教育科目	必修	担当者名	藁科 勝之			授業 形態	講義	単独	
授業 の 概要 等	<p>【授業の主旨】</p> <p>古典語を理解するための、語学的知識や解析方法を身に付ける。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-2に関連している。</p>									
到達 目標	<p>次の事項を目標とする。</p> <p>(1) 文字（仮名、漢字）の使い方を説明できる。</p> <p>(2) 古典語の単語の内部構造を分析できる。</p> <p>(3) 古典の文献、資料の語法、表現法について説明できる。</p>									
回	主 題		授業内容・授業時間外の学修					備考		
第1回	はじめに		古典語とは何か					講義資料配付（含 次回分）以下同様。		
第2回	言語における音と表記		言語の視覚化、その方法					講義・解説		
第3回	表音文字		カタカナ・ひらがなの創始					講義・解説		
第4回	表語文字		漢字とは何か。漢字の受容と摂取					講義・解説		
第5回	かなの機能		歴史的かなづかいとは何か					講義・解説		
第6回	語彙		単語の問題、古語辞典とは何か					講義・解説		
第7回	語構成		単語の分析、接辞、語基					中間レポート・課題 提示		
第8回	語形成		造語、合成、派生					反転学習		
第9回	古典語の文法		表現とは何か					講義・解説		
第10回	古典語の格		助詞のいろいろ					反転学習		
第11回	述語（1）		用言と活用と機能（1）					講義・解説		
第12回	述語（2）		用言と活用と機能（2）					反転学習		
第13回	種々の表現		疑問、強調、係りと結び					講義・解説		
第14回	古典の敬語（1）		待遇表現とは何か					反転学習		
第15回	古典の敬語（2）		敬語および待遇表現の仕組み。まとめ							
評価 方法 及び 評価 基準	<p>3分の2以上の出席を前提として、</p> <p>(1) レポート評価30%</p> <p>(2) 期末試験70%（古典語の特徴—文字・表記、語彙、文法—に関する基礎的知識・理解度を問う）</p> <p>なお、レポート評価には、ルーブリック評価を用いる。</p>									
課題 等	レポート等は、チェック、コメントを付して随時返却する。									
事前 事後 学修	毎回の授業時に、次回分の講義資料も含めて配布するので、当該授業時の事後学習とともに、次回分の事前学習を進めること。									
教材 教科書 参考書	<p>特定の教科書は用いない。必要な資料は、適宜印刷配布する。</p> <p>古語辞典を持参するように（電子辞書でも可）。</p> <p>また参考書等は、授業時に随時紹介する。</p>									
留意 点	授業時に紹介する複数の参考書を読んで、日本語の歴史に関する知識を得るようにすること。									

科目名	日本語学演習 I A		科目ナンバリング	L-JSLA3-09. S	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目コード	J52000		30時間				
区分	専門教育科目	選択必修	担当者名	今村 かほる			授業 形態	演習	単独	
授業 の 概要 等	<p>【授業の主旨】 言語政策・国語教育史としての方言と共通語教育について学ぶ。専門演習として、日本語学の先行研究のレビューの仕方や文献の入手など、学問の基礎を身につけつとともに、グループワークやプレゼンテーションなどのアクティブラーニングをする。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-2に関連している。</p>									
到達 目標	専門科目の演習として、問題解決に至るまでの過程を着実に積み上げる。プレゼンテーションのスキルを身に付け、必要な機器を用いて発表できるようになる。									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修				備 考		
第1回	演習の進め方に関するガイダンス			演習の進め方・講義との違い・グループワークとその準備および評価について理解する						
第2回	文献調査という手法を知る			文献調査の基礎 基本文献の扱い方とデータ収集						
第3回	フィールドワークという手法を知る			フィールドワークの基礎 調査計画とデータ収集						
第4回	資料収集・整理			先行研究文献の入手とまとめ						
第5回	仮説と調査方法			先行研究と仮説の位置づけを知り、それに基づく適切な調査方法を選択する						
第6回	調査準備			学習指導要領と教科書検定制度について学ぶ						
第7回	調査 1			国語教育：学習指導要領・国語教科書調査				グループワーク		
第8回	調査 2			国語教育：学習指導要領・国語教科書調査				グループワーク		
第9回	調査 3			国語教育：学習指導要領・国語教科書調査				グループワーク		
第10回	発表 1			学習指導要領班				プレゼンテーション		
第11回	発表 2			学習指導要領班				プレゼンテーション		
第12回	発表 3			小学校教科書班				プレゼンテーション		
第13回	発表 4			小学校教科書班				プレゼンテーション		
第14回	発表 5			中学校教科書班				プレゼンテーション		
第15回	発表 6			中学校教科書班				プレゼンテーション		
評価 方法 及び 評価 基準	演習時のコメント10%・課題提出20%・発表50%・質疑15%・グループワーク5% 学術研究の基本的知識と手順を身につけているかを、発表だけでなくグループワークワーク時にも評価する									
課題 等	P P Tを用いて発表資料を作成し、発表する。									
事前 事後 学修	授業時に指示する。参照すべきWebページ、文献資料を用いて、事前事後の調べ学習をする。									
教材 教科書 参考書	プリントを配布する									
留意 点	パソコンの操作とプレゼンテーションツールの扱いが必要。グループワークをする。弘前大学図書館との共通利用証を準備すること。アクティブラーニングを導入している									

科目名	日本語学演習 I B		科目ナンバリング	L-JSLA3-10. S	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期
			科目コード	J52001		30時間				
区分	専門教育科目	選択必修	担当者名	今村 かほる			授業 形態	演習	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 応用方言学 方言学の実践的研究と社会貢献としての応用 学問を現実社会に応用して、域方言の保存と継承、地域社会の活性化に役立てる 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>学問研究の成果を社会に応用し、危機言語である地域の方言に対し、その保存と継承という課題解決のための活動をする。その成果を報告するとともに、調査によって確かめる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授業内容・授業時間外の学修					備考		
第1回	演習の進め方に関するガイダンス		演習の進め方・講義との違い・グループワークとその準備および評価について理解する							
第2回	応用方言学		方言学の実践的研究と社会貢献としての応用方法							
第3回	方言ネットワークの構築 1		社会教育・生涯学習としての方言 ネットワーク会議の企画					グループワーク		
第4回	方言ネットワークの構築 2		社会教育・生涯学習としての方言 ネットワーク会議の開催準備					グループワーク		
第5回	方言ネットワークの構築 3		社会教育・生涯学習としての方言 ネットワーク会議の開催準備					グループワーク		
第6回	方言イベント 1		方言イベントの企画（南部弁の日）社会貢献・地域活性化としての方言					グループワーク		
第7回	方言イベント 2		方言イベントの企画（南部弁の日）開催準備 社会貢献・地域活性化としての方言					グループワーク		
第8回	方言イベント 3		方言イベントの企画（南部弁の日）開催準備 社会貢献・地域活性化としての方言					グループワーク		
第9回	言語データの分析と考察		言語データの文字化の方法を知る							
第10回	言語データの分析と考察		言語データに基づく論理的考察方法							
第11回	発表 1		方言ネットワーク班 方言ネットワーク会議の開催					アクティブラーニング		
第12回	発表 2		方言ネットワーク班					アクティブラーニング		
第13回	発表 3		方言イベント班 南部弁の日の開催					アクティブラーニング		
第14回	発表 4		方言イベント班					アクティブラーニング		
第15回	総括		危機言語の今と未来					ディスカッション		
評価方法及び評価基準	<p>演習時のコメント15%・グループワーク20%・発表50%・質疑15% 学術研究の基本的知識と手順を身につけているかを、発表だけでなく、評価する</p>									
課題等	<p>ネットワーク会議・方言イベントのまとめと報告をレポートにする。</p>									
事前事後学修	<p>プレゼンテーションツールを使って発表する</p>									
教材教科書参考書	<p>適宜、プリントを配布する。発表資料については、演習時にコメントし、修正後、再提出すること</p>									
留意点	<p>弘前大学図書館との共通利用証を準備すること。発表、レポート等にはパソコンを使用する。アクティブラーニングを導入している。</p>									

科目名	日本語学演習 I C		科目ナンバリング	L-JSLA3-11. S	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目コード	J52002		30時間				
区分	専門教育科目	選択必修	担当者名	藁科 勝之			授業 形態	演習	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 テーマ：ことばの誤用と規範 誤用は常に発生している。単なる不注意でなければ、その誤りの裏には何が潜んでいるのか、言語変化の要因となる契機を、それらの誤用例から探る。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>(1) ことばの用法について、誤用と正用・規範の基準について説明できる。 (2) 誤用の原因について分析できる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題	授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考		
第1回	はじめに	演習の進め方 発表、レポートについて						演習資料配付		
第2回	誤用とは何か	誤用と正用の規準						講義・解説		
第3回	誤用—課題例の提示（1）	音声・アクセント、音韻にかかわる例 文字・表記にかかわる例						発表に向けての事前準備		
第4回	誤用—課題例の提示（2）	語法、文法にかかわる例 修辞・レトリック、成句、慣用句にかかわる例						発表に向けての事前準備		
第5回	誤用例の収集と分析（1）	事象の分析 誤用かケアレスミスか						講義・解説		
第6回	誤用例の収集と分析（2）	事象の分析 誤用かケアレスミスか						講義・解説		
第7回	受講生による課題と提示	各自のテーマ、分析対象例の提示						プレゼンテーション ディスカッション		
第8回	受講生の発表（第1回）	発表と質疑応答、意見交換（第1回）						プレゼンテーション ディスカッション		
第9回	受講生の発表（第2回）	発表と質疑応答、意見交換（第2回）						プレゼンテーション ディスカッション		
第10回	受講生の発表（第3回）	発表と質疑応答、意見交換（第3回）						プレゼンテーション ディスカッション		
第11回	受講生の発表（第4回）	発表と質疑応答、意見交換（第4回）						プレゼンテーション ディスカッション		
第12回	受講生の発表（第5回）	発表と質疑応答、意見交換（第5回）						プレゼンテーション ディスカッション		
第13回	受講生の発表（第6回）	発表と質疑応答、意見交換（第6回）						プレゼンテーション ディスカッション		
第14回	受講生の発表（第7回）	発表と質疑応答、意見交換（第7回）						プレゼンテーション ディスカッション		
第15回	まとめ	全発表についての意見交換						ディスカッション		
評価方法及び評価基準	<p>2/3以上の出席を条件として、 調査報告・発表：課題について適切に調査・考察し、説得的に発表しているか（40%）。 期末レポート：用例の適切な量と質、処理と分析、説明記述を総合的に判断する（60%）。 プレゼンテーションおよびレポートの評価に、ルーブリック評価を用いる。</p>									
課題等	レポート等は、チェック、コメントを付して随時返却する。									
事前事後学修	受講生の発表テーマ、プレゼンテーション内容を批判的に受け止めつつ、自己の発表に活かす工夫をすること。									
教材教科書参考書	特定の教科書は用いない。 必要な演習資料は、適宜印刷配布する。 また参考書等は、授業時に随時紹介する。									
留意点	活発な質疑応答を心がけること。									

科目名	日本語学演習 I D		科目ナンバリング	L-JSLA3-12. S	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期
			科目コード	J52003		30時間				
区分	専門教育科目	選択必修	担当者名	藁科 勝之			授業 形態	演習	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 テーマ：ことばのゆれと変化 ゆれは常に発生している。両形または複数形の併存はなぜ生ずるのか、また、そのゆれの裏には何が潜んでいるのか、言語変化の要因となる契機を、それらのゆれの例から探る。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>(1) ことばの用法について、ゆれと規範の基準について説明できる。 (2) ゆれの原因について分析できる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修				備考		
第1回	はじめに			演習の進め方 発表、レポートについて				演習資料配付		
第2回	演習の進め方 発表、レポートについて			音声・アクセント、音韻にかかわる例 文字・表記にかかわる例				講義・解説		
第3回	ゆれ—課題例の提示			語法、文法にかかわる例 修辞・レトリック、成句、慣用句にかかわる例				講義・解説		
第4回	ゆれの用例の収集と分析（1）			事象の分析 ゆれか誤用か				発表に向けての 事前準備		
第5回	ゆれの用例の収集と分析（2）			事象の分析 ゆれか誤用か				発表に向けての 事前準備		
第6回	受講生による課題と提示			各自のテーマ、分析対象例の提示				プレゼンテーション ディスカッション		
第7回	受講生の発表（第1回）			各自のテーマ、分析対象例の提示				プレゼンテーション ディスカッション		
第8回	受講生の発表（第2回）			発表と質疑応答、意見交換（第2回）				プレゼンテーション ディスカッション		
第9回	受講生の発表（第3回）			発表と質疑応答、意見交換（第3回）				プレゼンテーション ディスカッション		
第10回	受講生の発表（第4回）			発表と質疑応答、意見交換（第4回）				プレゼンテーション ディスカッション		
第11回	受講生の発表（第5回）			発表と質疑応答、意見交換（第5回）				プレゼンテーション ディスカッション		
第12回	受講生の発表（第6回）			発表と質疑応答、意見交換（第6回）				プレゼンテーション ディスカッション		
第13回	受講生の発表（第7回）			発表と質疑応答、意見交換（第7回）				プレゼンテーション ディスカッション		
第14回	受講生の発表（第8回）			発表と質疑応答、意見交換（第8回）				プレゼンテーション ディスカッション		
第15回	まとめ			全発表についての意見交換				ディスカッション		
評価方法及び評価基準	<p>2/3以上の出席を条件として、 (1) 調査報告・発表：課題について適切に調査・考察し、説得的に発表しているか（40%）。 (2) 期末レポート：収集する用例の適切な量と質、それらの処理と分析、説明記述を総合的に判断する（60%） プレゼンテーションおよびレポートの評価に、ルーブリック評価を用いる。</p>									
課題等	レポート等は、チェック、コメントを付して随時返却する。									
事前事後学修	受講生の発表テーマ、プレゼンテーション内容を批判的に受け止めつつ、自己の発表に活かす工夫をすること。									
教材教科書参考書	特定の教科書は用いない。 必要な演習資料は、適宜印刷配布する。 また参考書は、授業時に随時紹介する。									
留意点	活発な質疑応答を心がけること。									

科目名	日本語学演習ⅡA		科目ナンバリング	L-JSLA4-13.S	単位数 時間	2単位	対象 学年	4年	開講 学期	前期
			科目コード	J52004		30時間				
区分	専門教育科目	選択必修	担当者名	今村 かほる			授業 形態	演習	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 若者語研究 SNSやゲーム等の普及により、急速に変化しつつある若者語について、専門的に学ぶ。現代的課題としてのメディアリテラシーを意識し、社会と学問を結び付ける学習とする。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-2に関連している。</p>									
到達目標	WEB上の情報を用いて、現代の若者語の特徴を明らかにする。SNSやネットの用語と、一般社会の用語との比較検討をする。									
授 業 計 画										
回	主 題		授業内容・授業時間外の学修						備 考	
第1回	演習の進め方・評価についてのガイダンス		演習の進め方 調べ学習とその準備および評価について理解する							
第2回	現代語研究の基礎		現代語研究の基礎知識の確認							
第3回	先行研究 1		データベースを利用して先行研究リストを作成する							
第4回	先行研究 2		web上のアーカイブから、情報を入手する・文献複写する							
第5回	研究方法		先行研究を乗り越え、仮説を検証するための方法							
第6回	データの均質性とは		比較できるデータとできないデータ 調査方法の妥当性を知る							
第7回	データの生産 1		パソコン機器を用いてデータ入力する						実習	
第8回	データの生産 2		パソコン機器を用いてデータ入力する						実習	
第9回	データの生産 3		パソコン機器を用いてデータ入力する						実習	
第10回	データ分析 1		表・グラフ・図などデータを加工する						実習	
第11回	データ分析 2		論理的考察							
第12回	発表 1		各個人のテーマに基づく発表							
第13回	発表 2		各個人のテーマに基づく発表							
第14回	発表 3		各個人のテーマに基づく発表							
第15回	総括		前期の学習の振り返り							
評価方法及び評価基準	演習時のコメント10%・課題提出20%・発表50%・質疑15%・グループワーク5% 学術研究の基本的知識と手順を身につけているかを、発表だけでなくグループワークワーク時にも評価する。									
課題等	PPTを用いて発表資料を作成									
事前事後学修	授業時に指示する。参照すべきWebページ、文献資料を用いて、調べ学習をする。									
教材教科書参考書	プリントを配布する									
留意点	パソコンの操作とプレゼンテーションツールの扱いが必要。各自の課題解決型の学習をする。弘前大学図書館との共通利用証を準備すること。									

科目名	日本語学演習ⅡB		科目ナンバリング	L-JSLA4-14.S	単位数 時間	2単位	対象 学年	4年	開講 学期	後期
			科目コード	J52005		30時間				
区分	専門教育科目	選択必修	担当者名	今村 かほる			授業 形態	演習	単独	
授業 の 概要 等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>国立国語研究所以来の「共通語」および共通語教育論争について理解する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-2に関連している。</p>									
到達 目標	戦後の国語教育における方言と共通語について理解する。国語教育と日本語学・方言学など、基礎学問といわれる研究成果とその応用について考えられるようになる。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	演習の進め方・評価に関するガイダンス		演習の進め方 調べ学習とその準備および評価について理解する							
第2回	国語と方言		明治期以来の歴史の概観							
第3回	先行研究		文献調査の基礎 基本文献の扱い方とデータ収集							
第4回	先行研究		先行研究文献のリスト作成と所在確認						フィールドワーク	
第5回	先行研究		先行研究文献のリスト作成と所在確認						フィールドワーク	
第6回	文献収集		先行研究文献の収集 図書館						フィールドワーク	
第7回	文献収集		先行研究文献の収集 web						フィールドワーク	
第8回	文献整理		先行研究文献のまとめと分析						フィールドワーク	
第9回	発表		各個人のテーマに基づく発表						発表	
第10回	発表		各個人のテーマに基づく発表						発表	
第11回	発表		各個人のテーマに基づく発表						発表	
第12回	発表		各個人のテーマに基づく発表						発表	
第13回	発表		各個人のテーマに基づく発表						発表	
第14回	発表		各個人のテーマに基づく発表						発表	
第15回	総括		戦後を中心とした国語教育の外観							
評価 方法 及び 評価 基準	演習時のコメント10%・課題提出20%・発表50%・質疑15%・グループワーク5% 学術研究の基本的知識と手順を身につけているかを、発表だけでなくグループワークワーク時にも評価する									
課題 等	PPTを用いて発表資料を作成									
事前 事後 学修	授業時に指示する。参照すべきWebページ、文献資料を用いて、調べ学習をする。									
教材 教科書 参考書	プリントを配布する。									
留意 点	パソコンの操作とプレゼンテーションツールの扱いが必要。各自の課題解決型の学習をする。弘前大学図書館との共通利用証を準備すること。									

科目名	日本文学概論 A		科目ナンバリング	L-JSLI1-00. J	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	J53000		30時間				
区分	専門教育科目	必修	担当者名	島山 篤			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>キーワード：〔日本文学の輪郭〕</p> <p>日本文学全体の輪郭・特質を、事例研究を通して究める。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-3に関連している。</p>									
到達目標	日本文学全体の輪郭・特質を知る。									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修				備考		
第1回	文学の発生の場①			国見歌が国見儀礼から生成していることを学ぶ。						
第2回	文学の発生の場②			春秋の祭場で催される歌垣から恋歌が生成されることを学ぶ。						
第3回	文学の発生の場③			神語は神霊の下る祭場の女性シャーマンと審神者によって生成されることを学ぶ。						
第4回	文学の発生の場④			文学の発生を折口「国文学の発生」から学ぶ①。						
第5回	文学の発生の場⑤			文学の発生を折口「国文学の発生」から学ぶ②。						
第6回	ことばとところ①			ことば（表現）とところ（主題）の関係を『古今集』仮名序から学ぶ。						
第7回	ことばとところ②			ことば（表現）とところ（主題）の関係を『筑波問答』から学ぶ①。				レポート提出(1)		
第8回	ことばとところ③			ことば（表現）とところ（主題）の関係を『筑波問答』から学ぶ②。						
第9回	ことばとところ④			ことば（表現）とところ（主題）の関係を『三冊子』と『去来抄』から学ぶ。						
第10回	ことばとところ⑤			ことば（表現）とところ（主題）の関係を『歌よみに与ふる書』から学ぶ。						
第11回	歴史と風土①			文学が歴史と風土と関係深いことを『義経記』から学ぶ①						
第12回	歴史と風土②			文学が歴史と風土と関係深いことを『義経記』から学ぶ②。						
第13回	歴史と風土③			文学が歴史と風土と関係深いことを『奥の細道』から学ぶ。						
第14回	歴史と風土④			文学が歴史と風土と関係深いことを『北越雪譜』と『武蔵野』から学ぶ。						
第15回	まとめ			授業を振り返る。						
評価方法及び評価基準	授業への取り組みと毎回の授業評価（30%）。レポート（1000字くらい）2本（35%×2）。レポートの評価は、毎年配布している「作文心得」に基づく。すなわち、書式を守る、題名のつけ方、主題の明示、句読点の位置、段落意識の有無などである。									
課題等	配布する「作文心得」を参照しながら、2回のレポートの作成をいつも心掛ける。									
事前事後学修	プリントは、予習・復習としてそれぞれ3回は音読する。講義内容に関連した著作を毎週読む。									
教材教科書参考書	随時プリントを配布する。									
留意点	レポートは一定のレベルに達するまで添削と再提出を反復する。6回以上欠席した場合は、単位を認定しない。研究室への来訪を歓迎する。									

科目名	日本文学概論B		科目ナンバリング	L-JSLI1-01.J	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	J53001		30時間				
区分	専門教育科目	必修	担当者名	島山 篤			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>キーワード：〔日本文学の輪郭〕</p> <p>日本文学全体の輪郭・特質を、事例研究を通して究める。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-3に関連している。</p>									
到達目標	日本文学全体の輪郭・特質を知る。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	神と人間①			神と人間の関わりが文学を生むことを景行記①から学ぶ。						
第2回	神と人間②			神と人間の関わりが文学を生むことを景行記②から学ぶ。						
第3回	神と人間③			神と人間の関わりが文学を生むことを景行記③から学ぶ。						
第4回	神と人間④			神と人間の関わりが文学を生むことを『今昔物語』五位の物語から学ぶ。						
第5回	神と人間⑤			神と人間の関わりが文学を生むことを『福音道志流部』から学ぶ。						
第6回	主題と表現①			主題と表現の関係を『古今集』994番歌と『伊勢物語』二十三段から学ぶ。						
第7回	主題と表現②			主題と表現の関係を『大和物語』百四十九段から学ぶ。					レポート提出(1)	
第8回	主題と表現③			主題と表現の関係を『堤中納言物語』「はいずみ」から学ぶ②。						
第9回	主題と表現④			主題と表現の関係を『諸国西鶴ばなし』「忍び扇の長歌」から学ぶ。						
第10回	主題と表現⑤			主題と表現の関係を『たけくらべ』から学ぶ。						
第11回	理念と表現①			文学における理念と表現の関係を『文芸一般論』から学ぶ。						
第12回	理念と表現②			文学における理念と表現の関係を『源氏物語』「螢の巻」から学ぶ①。						
第13回	理念と表現③			文学における理念と表現の関係を『源氏物語』「螢の巻」から学ぶ②。						
第14回	理念と表現④			文学における理念と表現の関係を『無名抄』から学ぶ。					レポート提出(2)	
第15回	まとめ			授業を振り返る。						
評価方法及び評価基準	授業への取り組みと毎回の授業評価（30％）。レポート（1000字くらい）2本（35％×2）。レポートの評価は、毎年配布している「作文心得」に基づく。すなわち、書式を守る、題名のつけ方、主題の明示、句読点の位置、段落意識の有無などである。									
課題等	配布する「作文心得」を参照しながら、2回のレポートの作成をいつも心掛ける。									
事前事後学修	プリントは、予習・復習としてそれぞれ3回は音読する。講義内容に関連した著作を毎週読む。									
教材教科書参考書	随時プリントを配布する。									
留意点	レポートは一定のレベルに達するまで添削と再提出を反復する。6回以上欠席した場合は、単位を認定しない。研究室への来訪を歓迎する。									

科目名	日本古典文学史		科目ナンバリング	L-JSL11-02.UJ	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	J53008		30時間				
区分	専門教育科目	選択	担当者名	島山 篤			授業 形態	講義	単独	
	教員免許	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 キーワード：〔ジャンルの史的展開〕 日本の古典文学の史的展開を実際の作品に触れながら総覧する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-3に関連している。</p>									
到達目標	<p>1、日本古典文学史の基礎的事項が述べられる。 2、古典作品の展開の姿が系統的に説明できる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	ガイダンス			文学の発生から近世までの日本文学史の流れを概観する。						
第2回	上代の文学①			『万葉集』の生成を学ぶ。						
第3回	上代の文学②			『古事記』の生成を学ぶ。						
第4回	中古の文学①			『古今集』の生成を学ぶ。						
第5回	中古の文学②			日記文学の生成を学ぶ。						
第6回	中古の文学③			『源氏物語』の生成を学ぶ。						
第7回	中古の文学④			『枕草子』の生成を学ぶ。				レポート提出(1)		
第8回	中世の文学①			『新古今集』の生成を学ぶ。						
第9回	中世の文学②			『平家物語』の生成を学ぶ。						
第10回	中世の文学③			『徒然草』の生成を学ぶ。						
第11回	中世の文学④			説教節『菟菫』の生成を学ぶ。						
第12回	近世の文学①			『冥途の飛脚』の生成を学ぶ。						
第13回	近世の文学②			『奥の細道』の生成を学ぶ。						
第14回	近世の文学③			国学（本居宣長・菅江真澄）の生成を学ぶ。				レポート提出(2)		
第15回	まとめ			古典文学史を概観する。授業を振り返る。						
評価方法及び評価基準	<p>授業への取り組みと毎回の授業評価（30％）。レポート（1000字くらい）2本（35％×2）。レポートの評価は、毎年配布している「作文心得」に基づく。すなわち、書式を守る、題名のつけ方、主題の明示、句読点の位置、段落意識の有無などである。</p>									
課題等	<p>配布する「作文心得」を参照しながら、2回のレポートの作成をいつも心掛ける。</p>									
事前事後学修	<p>テキストは、予習・復習としてそれぞれ3回は音読する。講義内容に関連した著作を毎週読む。</p>									
教材教科書参考書	<p>『日本古典読本』（ISBN978-4-480-91708-9）（秋山・桑名・鈴木、筑摩書房）</p>									
留意点	<p>レポートは一定のレベルに達するまで添削と再提出を反復する。6回以上欠席した場合は、単位を認定しない。研究室への来訪を歓迎する。</p>									

科目名	日本近現代文学史		科目ナンバリング	L-JSL11-03.UJ	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	J53011		30時間				
区分	専門教育科目	選択	担当者名	井上 諭一				授業 形態	講義	単独
	教員免許	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 文学部の学生にとってごく常識的な近代文学史の知識を広く修得する。対象とする時代は、江戸時代後期から現代に至る、広い意味での「近代」すべてである。その際、近代文学を代表する小説約100篇から本文の一部をプリントで提示し、勉強の手がかりとする。なお、授業時間90分を45分で前後に分け、中間で質問を受け付けるなど、2部構成で実行する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-3に関連している。</p>									
到達目標	近代現代文学史の流れについて基本を理解し、文学部の学生として最低限知っていなければならない基礎的知識を得たのち、自分なりの見解をもつようになる。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	導入；近代の始まり、19世紀中葉の文学状況			江戸中期から「近代」（アーリーモダン）が始まっていたことを、経済社会文化の面から実証する。また当時の東アジア、西欧における文学状況について一覽する。				ディスカッションあり		
第2回	明治文学史1；高座と口語			三遊亭円朝、二葉亭四迷				ディスカッションあり		
第3回	明治文学史2；ロマンティズム			北村透谷、樋口一葉				ディスカッションあり		
第4回	明治文学史3；自然主義			国木田独歩、島崎藤村				ディスカッションあり		
第5回	明治文学史4			夏目漱石、森鷗外				ディスカッションあり		
第6回	大正文学史1；耽美派			永井荷風、谷崎潤一郎				ディスカッションあり		
第7回	大正文学史2；白樺派			志賀直哉、有島武郎				ディスカッションあり		
第8回	大正文学史3；新思潮派、奇蹟派			芥川龍之介、葛西善蔵				ディスカッションあり		
第9回	昭和文学史1；モダニズム			横光利一、川端康成				ディスカッションあり		
第10回	昭和文学史2；20世紀文学			伊藤整、堀辰雄、太宰治				ディスカッションあり		
第11回	昭和文学史3；戦後派			野間宏、大岡昇平、椎名麟三、その他				ディスカッションあり		
第12回	昭和文学史4；第三の新人、内向の世代、その後			中上健次、村上龍、村上春樹、その他				ディスカッションあり		
第13回	平成文学史1；1990年代の文学			多和田葉子、笙野頼子、川上弘美、その他				ディスカッションあり		
第14回	平成文学史2；ゼロ年代の文学			長嶋有、絲山秋子、阿部和重、その他				ディスカッションあり		
第15回	平成文学史3～令和文学史			まとめに代えて：円城塔、高橋弘希、その他				ディスカッションあり		
評価方法及び評価基準	学期末の講義時間内に試験1回を実施（持ち込み禁止、60分）。全体の30%を講義（一部、演習的形式で行なうので、ディスカッションあり。）への参加度合いで評価し、試験の得点を70%として合算する。試験では、基本的な知識を修得していれば60%、歴史的な経緯について理解していれば80%、自分自身の見解を記述してあれば90%以上得点できるように問題を設定する。									
課題等	毎時間、リアクションペーパーを提出する。ペーパー自体は返却しないが、質問などその内容については次の講義時間に触れる。									
事前事後学修	原則として、事前に対象となる作家・作品を読んでおくことが必要。特に、長編の小説の場合はそれなりの時間が必要になるので、事前事後合わせて、一回の授業あたり10時間程度の学修が必須である。									
教材教科書参考書	安藤宏『日本近代小説史』（中央公論新社）ISBN-13：978-4121100207、プリントを併用。参考書は適宜指示する。									
留意点	講義時間中の質疑応答だけではなく、ネット（Teams）を介しての双方向的なやり取りも積極的に行うので、受講者は適宜、Teamsに接続する必要がある。									

科目名	地域文学研究		科目ナンバリング	L-JSL13-04. U	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期
			科目コード	J53010		30時間				
区分	専門教育科目	選択	担当者名	顧 偉良			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 宮沢賢治の初期作品『フランドン農学校の豚』や『ポラーノの広場』『風の又三郎』、『銀河鉄道の夜』を取り上げ、各作品をめぐってグループワークの方法でディスカッション（全員参加、4～5人一組）を行った上、各章・節の問題点や表現上の特色について分析する。各グループワークの代表でディスカッションを発表する。各グループワークのディスカッションをまとめる。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-3に関連している。</p>									
到達目標	作品の表現法、人物の行動心理に対する理解。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	ガイダンス			グループワークについて						
第2回	フランドン農学校の豚（1）			ディスカッション：豚を擬人化した表現法について						
第3回	フランドン農学校の豚（2）			ディスカッション：豚を擬人化した表現法について						
第4回	ポラーノの広場（第1、2節）			ディスカッション：餌を二人の紳士に与えながら罠に嵌ませる表現法						
第5回	ポラーノの広場（第3、4節）			ディスカッション：餌を二人の紳士に与えながら罠に嵌ませる表現法						
第6回	ポラーノの広場（第5、6節）			ディスカッション：「ポラーノの広場」に関する表現方法						
第7回	風の又三郎（第一回）			ディスカッション：「風の又三郎」の表現方法について						
第8回	風の又三郎（第二回）			ディスカッション：「風の又三郎」の表現方法について						
第9回	風の又三郎（第三回）			ディスカッション：「風の又三郎」の表現方法について						
第10回	風の又三郎（第四回）			ディスカッション：「風の又三郎」の表現方法について						
第11回	銀河鉄道の夜（第1,2節）			ディスカッション：心象スケッチの表現方法について						
第12回	銀河鉄道の夜（第3,4節）			ディスカッション：心象スケッチの表現方法について						
第13回	銀河鉄道の夜（第5,6節）			ディスカッション：心象スケッチの表現方法について						
第14回	銀河鉄道の夜（第7,8節）			ディスカッション：心象スケッチの表現方法について						
第15回	銀河鉄道の夜（第9節）			ディスカッション：心象スケッチの表現方法について						
評価方法及び評価基準	<p>授業への取り組み10% 発音テスト30%、筆記テスト60% 毎回、グループ分けてディスカッションを通して、各作品の表現法、人物像に関する分析などを用紙にまとめ、提出する。 期末にレポートを書いてもらう。</p>									
課題等	事前に作品を読むこと。									
事前事後学修	毎回、ディスカッションに関する感想を書かせて提出してもらう。少なくとも1日に作品精読30分。									
教材教科書参考書	主にプリントを使う。									
留意点	六回以上欠席の場合、単位修得不可（公欠や病欠を除く）。									

科目名	中古文学		科目ナンバリング	L-JSL12-06.S	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	J54043		30時間				
区分	専門教育科目	選択必修	担当者名	島山 篤			授業 形態	講義	単独	
	教員免許	選択必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>『今昔物語』巻二十九（本朝付悪行）を、当時の時代相を背景にして文脈に即して読み解き、聞き手に聞かせるように声高らかに音読する。そして、『今昔物語』の面白さ・魅力を十分に堪能する。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-3に関連している。</p>									
到達目標	<p>1 文意に即して大きな声で滑らかに音読できる。</p> <p>2 叙述を文法や文脈に沿って的確に理解できる。</p> <p>3 時代相を踏まえて理解できる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修				備 考		
第1回	ガイダンス			講義の趣旨説明						
第2回	第一話～第三話			担当者の音読と解釈。質疑応答。						
第3回	第四話～第六話			担当者の音読と解釈。質疑応答。						
第4回	第七話～第九話			担当者の音読と解釈。質疑応答。						
第5回	第十話～第十二話			担当者の音読と解釈。質疑応答。						
第6回	第十三話～第十五話			担当者の音読と解釈。質疑応答。						
第7回	第十六話～第十八話			担当者の音読と解釈。芥川作品への影響。質疑応答。						
第8回	第十九話～第二十一話			担当者の音読と解釈。質疑応答。				レポート提出(1)		
第9回	第二十二話～第二十四話			担当者と音読と解釈。芥川作品への影響。質疑応答。						
第10回	第二十五話～第二十七話			担当者の音読と解釈。質疑応答。						
第11回	第二十八話～第三十話			担当者の音読と解釈。質疑応答。						
第12回	第三十一話～第三十三話			担当者の音読と解釈。質疑応答。						
第13回	第三十四話～第三十六話			担当者の音読と解釈。質疑応答。						
第14回	第三十七話～第三十九話			担当者の音読と解釈。質疑応答。				レポート提出(2)		
第15回	まとめ			本講義を振り返る。						
評価方法及び評価基準	<p>授業への取り組みと毎回の授業評価（30％）。レポート（1000字くらい）2本（35％×2）。レポートの評価は、毎年配布している「作文心得」に基づく。すなわち、書式を守る、題名のつけ方、主題の明示、句読点の位置、段落意識の有無などである。</p>									
課題等	<p>配布する「作文心得」を参照しながら、2回のレポートの作成をいつも心掛ける。</p>									
事前事後学修	<p>テキストは、予習・復習としてそれぞれ3回は音読する。講義内容に関連した著作を毎週読む。</p>									
教材教科書参考書	<p>プリントを配布する。</p>									
留意点	<p>レポートは一定のレベルに達するまで添削と再提出を反復する。6回以上欠席した場合は、単位を認定しない。研究室への来訪を歓迎する。</p>									

科目名	中世文学		科目ナンバリング	L-JSL12-07.S	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	J54044		30時間				
区分	専門教育科目	選択必修	担当者名	島山 篤			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>キーワード：「語り物・貴種流離」</p> <p>中世の語り物『義経記』を、一語一句を大切にしながら声高らかに音読する。生まれながらにして流離する義経が、一時は栄華を極めながらもまた流離している。その展開を辿りながら、貴種流離を好む日本人の嗜好を学ぶ。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-3に関連している。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 大きな声で滑らかに音読できる。 2 叙述を文法や文脈に沿って的確に理解できる。 3 自力で終わりまで読み通せる。 4 後世の文学への影響を知る。 									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	忠信都へ・忠信最後			義経の忠臣の忠信の活躍を読み取る。						
第2回	忠信の首鎌倉へ・奥の細道			忠信の死とその後の文学化・伝説化を読み取る。						
第3回	判官南都へ			義経が奈良方面に赴くことを読み取る。						
第4回	勧修坊のこと			怪僧の勧修坊の活躍を読み取る。						
第5回	静鎌倉へ・若宮参詣			毅然とした静の生き方を読み取る。						
第6回	判官都落ち			義経が都を落ちる時のあわれさを読み取る。						
第7回	大津次郎・愛発山			義経が近江の国を下る道行きを読み取る				レポート提出(1)		
第8回	三の口の関通り			義経一行の関所越えを読み取る。						
第9回	平泉寺・如意の渡り			義経一行の北国落ちを読み取る(1)。						
第10回	直江津・亀割山			義経一行の北国落ちを読み取る(2)。						
第11回	秀衡死去・謀反			平泉到着後の状況の急変を読み取る。						
第12回	鈴木三郎・衣川の合戦			高館奮戦を読み取る。能舞「鈴木三郎」への影響を知る。						
第13回	判官自害・兼房・追討			義経の終焉を読み取る。						
第14回	奥の細道・義経北方落ち			奥の細道の平泉の条、義経北方落ち伝説を知る。				レポート提出(2)		
第15回	まとめ			本講義を振り返る。						
評価方法及び評価基準	<p>授業への取り組みと毎回の授業評価（30％）。レポート（1000字くらい）2本（35％×2）。レポートの評価は、毎年配布している「作文心得」に基づく。すなわち、書式を守る、題名のつけ方、主題の明示、句読点の位置、段落意識の有無などである。</p>									
課題等	<p>配布する「作文心得」を参照しながら、2回のレポートの作成をいつも心掛ける。</p>									
事前事後学修	<p>テキストは、予習・復習としてそれぞれ3回は音読する。講義内容に関連した著作を毎週読む。</p>									
教材教科書参考書	<p>随時プリントを配布する。</p>									
留意点	<p>レポートは一定のレベルに達するまで添削と再提出を反復する。6回以上欠席した場合は、単位を認定しない。研究室への来訪を歓迎する。</p>									

科目名	近代文学		科目ナンバリング	L-JSL12-09. SJ	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	J54046		30時間				
区分	専門教育科目	選択必修	担当者名	井上 諭一			授業 形態	講義	単独	
	教員免許	選択必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 芥川龍之介における怪奇、超常現象、超能力、広い意味でのミステリー趣味などを取り上げ、その意義を明らかにする。なお、授業時間90分を45分で前後に分け、中間で質問を受け付けるなど、2部構成で実行する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-3に関連している。</p>									
到達目標	20世紀前半の作品における「怪奇」や、「超常（現象）」などについて、現代的な知見から冷静に見る能力が得られる。それとともに、単に小説家の非科学的な趣味ではなく、強力な文明批判を含んだ優れた芸術作品として、それらを受容する読解力が得られる。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	芥川龍之介のミステリ①			「開化の殺人」を読む				ディスカッションあり		
第2回	芥川龍之介の怪奇小説①			「黒衣聖母」を読む				ディスカッションあり		
第3回	芥川龍之介の怪奇小説②			「影」を読む				ディスカッションあり		
第4回	芥川龍之介の怪奇小説③			「奇怪な再会」を読む				ディスカッションあり		
第5回	芥川龍之介のミステリ②			「春の夜」を読む				ディスカッションあり		
第6回	芥川龍之介の怪奇小説④			「煙草と悪魔」を読む				ディスカッションあり		
第7回	芥川龍之介のミステリ③			「西郷隆盛」を読む				ディスカッションあり		
第8回	芥川龍之介のミステリ④			「疑惑」を読む				ディスカッションあり		
第9回	芥川龍之介の怪奇小説⑤			「妖婆」を読む				ディスカッションあり		
第10回	芥川龍之介の怪奇小説⑥			「魔術」を読む				ディスカッションあり		
第11回	芥川龍之介のミステリ⑤			「妙な話」を読む				ディスカッションあり		
第12回	芥川龍之介のミステリ⑥			「お富の貞操」を読む				ディスカッションあり		
第13回	芥川龍之介のミステリ⑦			「報恩記」を読む				ディスカッションあり		
第14回	芥川龍之介のミステリ⑧			「藪の中」を読む				ディスカッションあり		
第15回	まとめ			芥川龍之介ひいては日本近代小説における「ミステリ」「怪奇」の位置について、明らかにする				ディスカッションあり		
評価方法及び評価基準	<p>学期末にレポートを一回課す。(3000字程度) 全体の30%を講義(一部、演習的形式で行なう)への参加度合いで評価し、レポートの得点を70%として合算する。 レポートでは、基本的な知識を修得していれば60%、自分の独創的な意見が記述できていれば80%、自分自身の見解と他者の意見とを照らし合わせて検討できていれば90%以上の得点とする</p>									
課題等	毎回リフレクションペーパーを提出する。ペーパー自体は返却しないが、質問などその内容については次の講義時間内に触れる。									
事前事後学修	教科書の該当部分を事前に読み、また当時の諸事情についてあらかじめ知識を得ておく必要がある。(予習平均1時間以上必要)また、時間の関係上、作品内のすべての細部について詳述できるわけではないので、その部分については事後の自習が必須である。(事後の学修5時間以上必要)									
教材教科書参考書	芥川龍之介『黒衣聖母(探偵くらぶ)』光文社、2021/10、ISBN-13 : 978-4334792329									
留意点	講義時間中の質疑応答だけではなく、ネット(Teams)を介しての双方向的なやり取りも積極的に行うので、受講者は適宜、Teamsに接続する必要がある。									

科目名	古典文学演習 I A		科目ナンバリング	L-JSL13-20. S	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目コード	J54048		30時間				
区分	専門教育科目	選択必修	担当者名	畠山 篤			授業 形態	演習	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>古代の英雄伝承を声高らかに音読する。そして、本文を正確に注解し、古代文学のダイナミズムに迫る。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-3に関連している。</p>									
到達目標	<p>1 文意に即して大きな声で滑らかに音読できる。</p> <p>2 叙述を文法や文脈に沿って的確に理解できる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
第1回	二皇子の舞(1)		畠山が演習のモデルを示して発表(1)。質疑応答。							
第2回	二皇子の舞(2)		畠山が演習のモデルを示して発表(2)。質疑応答。							
第3回	二皇子の舞(3)		畠山が演習のモデルを示して発表(3)。質疑応答。							
第4回	因幡の素戔・大国主の受難		担当者の発表。質疑応答。							
第5回	根の国行き		担当者の発表。質疑応答。							
第6回	沼河比売への求婚(1)		担当者の発表。質疑応答。							
第7回	沼河比売への求婚(2)		担当者の発表。質疑応答。					レポート提出(1)		
第8回	須世理毘売の嫉妬(1)		担当者の発表。質疑応答。							
第9回	須世理毘売の嫉妬(2)		担当者の発表。質疑応答。							
第10回	聖帝の御世・黒日売		担当者の発表。質疑応答。							
第11回	石之日売の嫉妬		担当者の発表。質疑応答。							
第12回	筒木宮の石之日売		担当者の発表。質疑応答。							
第13回	速総別王と女鳥王		担当者の発表。質疑応答。							
第14回	雁の卵		担当者の発表。質疑応答。					レポート提出(2)		
第15回	まとめ		本演習を振り返る。							
評価方法及び評価基準	<p>授業への取り組みと毎回の授業評価(30%)。レポート(1000字くらい)2本(35%×2)。レポートの評価は、毎年配布している「作文心得」に基づく。すなわち、書式を守る、題名のつけ方、主題の明示、句読点の位置、段落意識の有無などである。</p>									
課題等	<p>配布する「作文心得」を参照しながら、2回のレポートの作成をいつも心掛ける。</p>									
事前事後学修	<p>テキストは、予習・復習としてそれぞれ3回は音読する。講義内容に関連した著作を毎週読む。</p>									
教材教科書参考書	<p>適宜、指示する。例えば、『古代歌謡全注釈—古事記編—』(土橋寛)・『古事記注釈』(西郷信綱)とかを参照する。</p>									
留意点	<p>レポートは一定のレベルに達するまで添削と再提出を反復する。5回以上欠席した場合は、単位を認定しない。研究室への来訪を歓迎する。</p>									

科目名	古典文学演習 I B		科目ナンバリング	L-JSL13-21.S	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期
			科目コード	J54049		30時間				
区分	専門教育科目	選択必修	担当者名	畠山 篤			授業 形態	演習	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>万葉集のなかで勅撰といわれる巻二（相聞）の恋歌を声高らかに読んでいく。そして、それらの本文を正確に注解し、古代文学のダイナミズムに迫る。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-3に関連している。</p>									
到達目標	<p>1 文意に即して大きな声で滑らかに音読できる。</p> <p>2 叙述を文法や文脈に沿って的確に理解できる。</p> <p>3 時代的な背景を理解する。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	ガイダンス・畠山の発表(1)			質疑応答						
第2回	畠山の発表(2)（85～90）			質疑応答						
第3回	畠山の発表(3)（85～90）			質疑応答						
第4回	担当者の発表			質疑応答						
第5回	担当者の発表			質疑応答						
第6回	担当者の発表			質疑応答						
第7回	担当者の発表			質疑応答				レポート提出(1)		
第8回	担当者の発表			質疑応答						
第9回	担当者の発表			質疑応答						
第10回	担当者の発表			質疑応答						
第11回	担当者の発表			質疑応答						
第12回	担当者の発表			質疑応答						
第13回	担当者の発表			質疑応答						
第14回	担当者の発表			質疑応答				レポート提出(2)		
第15回	まとめ			本演習を振り返る。						
評価方法及び評価基準	<p>授業への取り組みと毎回の授業評価（30％）。レポート（1000字くらい）2本（35％×2）。レポートの評価は、毎年配布している「作文心得」に基づく。すなわち、書式を守る、題名のつけ方、主題の明示、句読点の位置、段落意識の有無などである。</p>									
課題等	<p>配布する「作文心得」を参照しながら、2回のレポートの作成をいつも心掛ける。</p>									
事前事後学修	<p>テキストは、予習・復習としてそれぞれ3回は音読する。講義内容に関連した著作を毎週読む。とくに『万葉集全歌講義㊦』（阿蘇瑞枝、笠間書院）と『万葉集釋注二』（伊藤博、塙書房）は必読書。</p>									
教材教科書参考書	<p>適宜、指示する。</p>									
留意点	<p>レポートは一定のレベルに達するまで添削と再提出を反復する。6回以上欠席した場合は、単位を認定しない。研究室への来訪を歓迎する。</p>									

科目名	近現代文学演習 I A		科目ナンバリング	L-JSL13-24. S	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目コード	J54052		30時間				
区分	専門教育科目	選択必修	担当者名	顧 偉良			授業 形態	演習	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 谷崎潤一郎の小説『痴人の愛』などを取り上げ、各作品をめぐってグループワークの方法でディスカッション（全員参加、4～5人一組）を行なった上、各章・節の問題点や表現上の特色について分析する。各グループワークのディスカッションをまとめる。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-3に関連している。</p>									
到達目標	作品の表現法、人物の行動心理に対する理解。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	演習に関するガイダンス			演習に関するガイダンス						
第2回	『痴人の愛』（1、2）			グループ分けて作品の表現法に関するディスカッション						
第3回	『痴人の愛』（3、4）			グループ分けて作品の表現法に関するディスカッション						
第4回	『痴人の愛』（5、6）			グループ分けて作品の表現法に関するディスカッション						
第5回	『痴人の愛』（7、8）			グループ分けて作品の表現法に関するディスカッション						
第6回	『痴人の愛』（9、10）			グループ分けて作品の表現法に関するディスカッション						
第7回	『痴人の愛』（11、12）			グループ分けて作品の表現法に関するディスカッション						
第8回	『痴人の愛』（13、14）			グループ分けて作品の表現法に関するディスカッション						
第9回	『痴人の愛』（15、16）			グループ分けて作品の表現法に関するディスカッション						
第10回	『痴人の愛』（17、18）			グループ分けて作品の表現法に関するディスカッション						
第11回	『痴人の愛』（19、20）			グループ分けて作品の表現法に関するディスカッション						
第12回	『痴人の愛』（21、22）			グループ分けて作品の表現法に関するディスカッション						
第13回	『痴人の愛』（23、24）			グループ分けて作品の表現法に関するディスカッション						
第14回	『痴人の愛』（25、26）			グループ分けて作品の表現法に関するディスカッション						
第15回	『痴人の愛』（27、28）			グループ分けて作品の表現法に関するディスカッション						
評価方法及び評価基準	<p>授業への取り組み10% 発音テスト30%、筆記テスト60% 毎回、ディスカッションを通して、各作品の表現法、人物像に関する分析などを用紙にまとめ、提出する。期末にレポートを書いてもらう。</p>									
課題等	事前に作品を読むこと。									
事前事後学修	毎回、ディスカッションに関する感想を書かせて提出してもらう。少なくとも1日に作品精読30分。									
教科書参考書	『痴人の愛』、中公文庫（1921193008002）									
留意点	六回以上欠席の場合、単位修得不可（公欠や病欠を除く）。									

科目名	近現代文学演習 I B		科目ナンバリング	L-JSL13-25. S	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期
			科目コード	J54053		30時間				
区分	専門教育科目	選択必修	担当者名	顧 偉良			授業 形態	演習	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 谷崎潤一郎の小説『刺青』『少年』『少将滋幹の母』などを取り上げ、谷崎文学のエロティシズムをめぐってグループワークの方法でディスカッション（全員参加、4～5人一組）を行なった上、各章・節の問題点や表現上の特色について分析する。各グループワークのディスカッションをまとめる。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-3に関連している。</p>									
到達目標	作品の表現法、人物の行動心理に対する理解。									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修				備 考		
第1回	『刺青』について			グループ分けて作品の表現法に関するディスカッション						
第2回	『少年』について			グループ分けて作品の表現法に関するディスカッション						
第3回	『少年』について			グループ分けて作品の表現法に関するディスカッション						
第4回	『秘密』について			グループ分けて作品の表現法に関するディスカッション						
第5回	『少将滋幹の母』 その一			グループ分けて作品の表現法に関するディスカッション						
第6回	『少将滋幹の母』 その二			グループ分けて作品の表現法に関するディスカッション						
第7回	『少将滋幹の母』 その三			グループ分けて作品の表現法に関するディスカッション						
第8回	『少将滋幹の母』 その四			グループ分けて作品の表現法に関するディスカッション						
第9回	『少将滋幹の母』 その五			グループ分けて作品の表現法に関するディスカッション						
第10回	『少将滋幹の母』 その六			グループ分けて作品の表現法に関するディスカッション						
第11回	『少将滋幹の母』 その七			グループ分けて作品の表現法に関するディスカッション						
第12回	『少将滋幹の母』 その八			グループ分けて作品の表現法に関するディスカッション						
第13回	『少将滋幹の母』 その九			グループ分けて作品の表現法に関するディスカッション						
第14回	『少将滋幹の母』 その十			グループ分けて作品の表現法に関するディスカッション						
第15回	『少将滋幹の母』 その十一			グループ分けて作品の表現法に関するディスカッション						
評価方法及び評価基準	<p>授業への取り組み10% 発音テスト30%、筆記テスト60% 毎回、ディスカッションを通して、各作品の表現法、人物像に関する分析などを用紙にまとめ、提出する。期末にレポートを書いてもらう。</p>									
課題等	事前に作品を読むこと。									
事前事後学修	毎回、ディスカッションに関する感想を書かせて提出してもらう。少なくとも1日に作品精読30分。									
教材教科書参考書	『刺青・秘密』（1920193004380）、『少将滋幹の母』（1920193004380）、新潮文庫									
留意点	六回以上欠席の場合、単位修得不可（公欠や病欠を除く）。									

科目名	日本文学研究B(散文)		科目ナンバリング	L-JSL13-12.UJ	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期
			科目コード	J54055		30時間				
区分	専門教育科目	選択	担当者名	島山 篤				授業 形態	講義	単独
	教員免許	選択必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>琵琶法師による語り(散文)文芸の最高峰に立つ『平家物語』を、当時の時代相を背景にして文脈に即して読み解き、聞き手に聞かせるように声高らかに音読する。そして、『今昔物語』の面白さ・魅力を十分に堪能する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-3に関連している。</p>									
到達目標	<p>1 大きな声で滑らかに音読できる。</p> <p>2 叙述を文法や文脈に沿って的確に理解できる。</p> <p>3 自力で終わりまで読み通せる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	殿上の闇討			平家興隆の始まりを読み取る。						
第2回	三台上祿			平家の興隆を読み取る。						
第3回	二代后			当時の宮廷の事情を読み取る。						
第4回	額打論			南都北嶺の勢力関係を読み取る。						
第5回	義王・義王出家			清盛の横暴を女語りから読み取る。						
第6回	殿下乗合			平家悪行のはじめを読み取る。						
第7回	成親大将謀反			平家への謀反の動きを読み取る。					レポート提出(1)	
第8回	北の政所誓願・神輿振り			叡山の強訴の恐ろしさを読み取る。						
第9回	明雲座主流罪・明雲帰山			叡山の政治的な動きを読み取る。						
第10回	多田の蔵人返り忠			返り忠の動向を読み取る。						
第11回	小教訓			重盛の清盛へのたしなめ(1)を読み取る。						
第12回	大教訓			重盛の清盛へのたしなめ(2)を読み取る。						
第13回	成親と少将の流罪			謀反人の流罪の顛末を読み取る。						
第14回	鬼界が島への流罪			三人の謀反人の流罪を読み取る。					レポート提出(2)	
第15回	まとめ			授業を振り返る						
評価方法及び評価基準	<p>授業への取り組みと毎回の授業評価(30%)。レポート(1000字くらい)2本(35%×2)。レポートの評価は、毎年配布している「作文心得」に基づく。すなわち、書式を守る、題名のつけ方、主題の明示、句読点の位置、段落意識の有無などである。</p>									
課題等	<p>配布する「作文心得」を参照しながら、2回のレポートの作成をいつも心掛ける。</p>									
事前事後学修	<p>テキストは、予習・復習としてそれぞれ3回は音読する。講義内容に関連した著作を毎週読む。</p>									
教材教科書参考書	<p>随時プリントを配布。</p>									
留意点	<p>レポートは一定のレベルに達するまで添削と再提出を反復する。5回以上欠席した場合は、単位を認定しない。研究室への来訪を歓迎する。</p>									

科目名	古典文学演習ⅡA		科目ナンバリング	L-JSLI4-30.S	単位数 時間	2単位	対象 学年	4年	開講 学期	前期
			科目コード	J54056		30時間				
区分	専門教育科目	選択必修	担当者名	島山 篤			授業 形態	演習	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>キーワード：〔音読・韻文の精華〕</p> <p>古今和歌集の巻七（賀歌）・八（羈旅歌）の歌を歌意をとらえて声高らかに音読する。そして、一語一句を正確に解釈しながら、古典文学の韻文の精華の世界を浮き彫りにする。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-3に関連している。</p>									
到達目標	<p>1 文意に即して大きな声で滑らかに音読できる。</p> <p>2 叙述を文法や文脈に沿って的確に理解できる。</p> <p>3 時代的な背景を踏まえ、当時の貴族文化の様態を理解できる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修				備 考		
第1回	ガイダンス			演習の趣旨説明と歌の割り当て。						
第2回	担当の歌			担当者の発表。質疑応答。						
第3回	担当の歌			担当者の発表。質疑応答。						
第4回	担当の歌			担当者の発表。質疑応答。						
第5回	担当の歌			担当者の発表。質疑応答。						
第6回	担当の歌			担当者の発表。質疑応答。						
第7回	担当の歌			担当者の発表。質疑応答。				レポート提出(1)		
第8回	担当の歌			担当者の発表。質疑応答。						
第9回	担当の歌			担当者の発表。質疑応答。						
第10回	担当の歌			担当者の発表。質疑応答。						
第11回	担当の歌			担当者の発表。質疑応答。						
第12回	担当の歌			担当者の発表。質疑応答。						
第13回	担当の歌			担当者の発表。質疑応答。						
第14回	担当の歌			担当者の発表。質疑応答。				レポート提出(2)		
第15回	まとめ			本演習を振り返る。						
評価方法及び評価基準	<p>授業への取り組みと毎回の授業評価（30％）。レポート（1000字くらい）2本（35％×2）。レポートの評価は、毎年配布している「作文心得」に基づく。すなわち、書式を守る、題名のつけ方、主題の明示、句読点の位置、段落意識の有無などである。</p>									
課題等	<p>配布する「作文心得」を参照しながら、2回のレポートの作成をいつも心掛ける。</p>									
事前事後学修	<p>テキストは、予習・復習としてそれぞれ3回は音読する。講義内容に関連した著作を毎週読む。</p>									
教材教科書参考書	<p>適宜、プリントを配布する。</p>									
留意点	<p>レポートは一定のレベルに達するまで添削と再提出を反復する。6回以上欠席した場合は、単位を認定しない。研究室への来訪を歓迎する。</p>									

科目名	近現代文学演習ⅡA		科目ナンバリング	L-JSLI4-34.S	単位数 時間	2単位	対象 学年	4年	開講 学期	前期
			科目コード	J54060		30時間				
区分	専門教育科目	選択必修	担当者名	顧 偉良			授業 形態	演習	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 太宰治の作品『人間失格』『斜陽』などを取り上げ、太宰の情死にいたる病、及び作品の人物像について考える。グループワークの方法でディスカッションを行なった上、各章・節の問題点や表現上の特色について分析する。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-3に関連している。</p>									
到達目標	作品に対する理解									
授 業 計 画										
回	主 題	授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修							備 考	
第1回	ガイダンス	ガイダンス								
第2回	『人間失格』について	作品に関するディスカッション								
第3回	『人間失格』について	作品に関するディスカッション								
第4回	『人間失格』について	作品に関するディスカッション								
第5回	『人間失格』について	作品に関するディスカッション								
第6回	『人間失格』について	作品に関するディスカッション								
第7回	『斜陽』について	作品に関するディスカッション								
第8回	『斜陽』について	作品に関するディスカッション								
第9回	『斜陽』について	作品に関するディスカッション								
第10回	『斜陽』について	作品に関するディスカッション								
第11回	『斜陽』について	作品に関するディスカッション								
第12回	『斜陽』について	作品に関するディスカッション								
第13回	『斜陽』について	作品に関するディスカッション								
第14回	『斜陽』について	作品に関するディスカッション								
第15回	まとめ	まとめ								
評価方法及び評価基準	授業への取り組み10% 発音テスト30%、筆記テスト60% 毎回、ディスカッションを通して、各作品の表現法、人物像に関する分析などを用紙にまとめ、提出する。期末レポートを提出。									
課題等	事前に作品を読むこと。									
事前事後学修	毎回、ディスカッションに関する感想を書かせて提出してもらおう。少なくとも1日に作品精読30分。									
教材教科書参考書	『斜陽』、『人間失格』									
留意点	六回以上欠席の場合、単位修得不可（公欠や病欠を除く）。									

科目名	近現代文学演習ⅡB		科目ナンバリング	L-JSLI4-35.S	単位数 時間	2単位	対象 学年	4年	開講 学期	後期
			科目コード	J54061		30時間				
区分	専門教育科目	選択必修	担当者名	顧 偉良			授業 形態	演習	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 太宰治の作品『ヴィヨンの妻』『グッド・バイ』を取り上げ、太宰の情死にいたる病、及び作品の人物像について考える。グループワークの方法でディスカッションを行なった上、各章・節の問題点や表現上の特色について分析する。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-3に関連している。</p>									
到達目標	作品に対する理解									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	『ヴィヨンの妻』について			作品に関するディスカッション						
第2回	『ヴィヨンの妻』について			作品に関するディスカッション						
第3回	『ヴィヨンの妻』について			作品に関するディスカッション						
第4回	『ヴィヨンの妻』について			作品に関するディスカッション						
第5回	『グッド・バイ』について			作品に関するディスカッション						
第6回	『グッド・バイ』について			作品に関するディスカッション						
第7回	『グッド・バイ』について			作品に関するディスカッション						
第8回	『グッド・バイ』について			作品に関するディスカッション						
第9回	『グッド・バイ』について			作品に関するディスカッション						
第10回	『グッド・バイ』について			作品に関するディスカッション						
第11回	『グッド・バイ』について			作品に関するディスカッション						
第12回	『グッド・バイ』について			作品に関するディスカッション						
第13回	『グッド・バイ』について			作品に関するディスカッション						
第14回	『グッド・バイ』について			作品に関するディスカッション						
第15回	まとめ			総括						
評価方法及び評価基準	授業への取り組み10% 発音テスト30%、筆記テスト60% 毎回、ディスカッションを通して、各作品の表現法、人物像に関する分析などを用紙にまとめ、提出する。期末レポートを提出。									
課題等	事前に作品を読むこと。									
事前事後学修	毎回、ディスカッションに関する感想を書かせて提出してもらおう。少なくとも1日に作品精読30分。									
教材教科書参考書	『ヴィヨンの妻』、『グッド・バイ』、新潮文庫									
留意点	六回以上欠席の場合、単位修得不可（公欠や病欠を除く）。									

科目名	日本文化概論 A		科目ナンバリング	L-JSCL1-00. J	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	J56001		30時間				
区分	専門教育科目	必修	担当者名	井上 諭一			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 特に「大衆文化」に焦点を当て、過去に書かれた有名な「日本論」「日本人論」を対比しながら読んでいく。21世紀における「日本」や「文化」について考える基礎を与える。なお、授業時間90分を45分で前後に分け、中間で質問を受け付けるなど、2部構成で実行する。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-4に関連している。</p>									
到達目標	俗説に惑わされることなく、学問的に現代の「日本大衆文化」（ポピュラー文化）を捉えられるようになる。もちろん、教科書編者の意見に対しても十分批判ができるようになる。									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修					備 考	
第1回	導入			教科書を批判的に読むという読み方について					ディスカッションあり	
第2回	日本大衆文化の原理と美学 1			柳田國男、加藤周一らの論について					ディスカッションあり	
第3回	日本大衆文化の原理と美学 2			小林秀雄、吉本隆明らの論について					ディスカッションあり	
第4回	運動する大衆			折口信夫、市古貞次らの論について					ディスカッションあり	
第5回	動員される大衆			大谷壮一、石子順造らの論について					ディスカッションあり	
第6回	群れとしての作者 1			柳田國男、夏目漱石らの論について					ディスカッションあり	
第7回	群れとしての作者 2			中井正一の論について					ディスカッションあり	
第8回	群れとしての作者 3			大熊信行、片上伸らの論について					ディスカッションあり	
第9回	中間討論会			これまでの講義を踏まえて、参加者による、やや包括的な討論を行う。ただし、コロナの状況によっては変動がありうる。					長めのディスカッションあり	
第10回	同時代の日本大衆化論 1			手塚治虫、加太こうじらの論について					ディスカッションあり	
第11回	同時代の日本大衆化論 2			坂口安吾、司馬遼太郎らの論について					ディスカッションあり	
第12回	同時代の日本大衆化論 3			江藤淳の論について					ディスカッションあり	
第13回	都市空間と民俗文化 1			小松和彦の論について					ディスカッションあり	
第14回	都市空間と民俗文化 2			宮田登の論について					ディスカッションあり	
第15回	まとめに代えて			現代読者の成立、または集合知のありようについて					ディスカッションあり	
評価方法及び評価基準	<p>学期末にレポートを一回課す。(3000字程度) 全体の30%を講義(一部、演習的形式で行なうので、講義時間内にディスカッションの場面がある。ただし、コロナの状況によって変動する)への参加度合いで評価し、レポートの得点を70%として合算する。レポートでは、基本的な知識を修得していれば60%、他者の見解などにも触れ、自分の独創的な意見が記述できていれば80%、自分自身の見解と他者の意見とを照らし合わせて検討できていれば90%以上の得点とする。</p>									
課題等	毎時間、リアクションペーパーを提出する。ペーパー自体は返却しないが、質問などその内容については次の講義時間に触れる。									
事前事後学修	教科書の該当部分は常に事前に読んでおく必要がある。(予習2時間以上必要) また、時間の関係上、特にメディアの状況については詳述できない部分があり、事後の自習が必須である。(事後の学修4時間以上必要)									
教材教科書参考書	柳田國男他『日本大衆文化論アンソロジー』ISBN-13 : 978-4778317355 参考書として『日本大衆文化史』ISBN-13 : 978-4044005634 (参考書は、購入する必要はない)									
留意点	講義時間中の質疑応答だけではなく、ネット(Teams)を介しての双方向的なやり取りも積極的に行うので、受講者は適宜、Teamsに接続する必要がある。									

科目名	日本文化概論B		科目ナンバリング	L-JSCL1-01.J	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	J56002		30時間				
区分	専門教育科目	必修	担当者名	井上 諭一			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 日本文化に関する「俗説」を廃し、科学的・批判的な立場で現代における文化論の水準を示す。なお、授業時間90分を45分で前後に分け、中間で質問を受け付けるなど、2部構成で実行する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-4に関連している。</p>									
到達目標	<p>一方的な思い込みによる「日本文化」論に惑わされることなく、世界の中での、また諸学問の中での「日本文化」の位置を考えることができるようになる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授業内容・授業時間外の学修					備 考		
第1回	はじめに		新しい「日本文化論」「日本人論」の、どこに問題があるのか、明らかにする					ディスカッションあり		
第2回	集団主義と個人主義？		言及されることの多い日本の「集団主義」は本当なのか？					ディスカッションあり		
第3回	日本人論の足元		「日本文化論」「日本人論」のデータの不適切さについて述べる					ディスカッションあり		
第4回	個人主義的なアメリカ？		日本と対比されることの多い「アメリカ」について述べる					ディスカッションあり		
第5回	日本経済と「集団主義」		日本の経済状況を歴史的に追い、それと俗流「日本人論」の関係について考える					ディスカッションあり		
第6回	日本人論の言説①日本語		日本人の性質として言われることはどのくらい確からしいのか、特に日本語について考える					ディスカッションあり		
第7回	日本人論の言説②スポーツ、その他		前回に引き続き、スポーツその他について考える					ディスカッションあり		
第8回	俗説の生まれる場所と時		なぜ俗説が生まれるのか、そのきっかけを探る					ディスカッションあり		
第9回	俗説の通説化		根拠のない俗説が罷り通ってしまう過程を明らかにする					ディスカッションあり		
第10回	文化とステレオタイプ		型にはまった見方、単純な価値判断＝ステレオタイプについて					ディスカッションあり		
第11回	日本文化論に潜む罣		単純で理解しやすい（しかも危険で誤っている）類型に陥らないためにはどうすべきか？					ディスカッションあり		
第12回	個別研究①：坂口安吾		坂口安吾「日本文化私観」を読み、現代の観点から批評する					ディスカッションあり		
第13回	個別研究②：加藤周一		加藤周一「雑種文化」を読み、現代の観点から批評する					ディスカッションあり		
第14回	個別研究③：梅棹忠夫		梅棹忠夫「文明の生態史観」を読み、現代の観点から批評する					ディスカッションあり		
第15回	まとめと展望		今後の「日本文化論」はどうあるべきか、その展望を示す					ディスカッションあり		
評価方法及び評価基準	<p>学期末にレポートを一回課す。(3000字程度) 全体の30%を講義（一部、演習的形式で行なうので、講義時間内にディスカッションの場面がある）への参加度合いで評価し、レポートの得点を70%として合算する。レポートでは、基本的な知識を修得していれば60%、他者の見解などにも触れ、自分の独創的な意見が記述できていれば80%、自分自身の見解と他者の意見とを照らし合わせて検討できていれば90%以上の得点とする。</p>									
課題等	<p>毎時間、リアクションペーパーを提出する。ペーパー自体は返却しないが、質問などその内容については次の講義時間内に触れる。</p>									
事前事後学修	<p>教科書の該当部分は常に事前に読んでおく必要がある。（予習2時間以上必要）また、第12回～第14回については事前にプリントを渡すので、十分な予習が必要とされる。</p>									
教材教科書参考書	<p>高野陽太郎『日本人論の危険な過ち—文化ステレオタイプの誘惑と罣』（ディスカヴァー・トゥエンティワン、ディスカヴァー携書） ISBN-13 : 978-4799325643、プリントを併用</p>									
留意点	<p>講義時間中の質疑応答だけではなく、ネット（Teams）を介しての双方向的なやり取りも積極的に行うので、受講者は適宜、Teamsに接続する必要がある。</p>									

科目名	日本の歴史A		科目ナンバリング	L-JSCL1-02. U	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	J56003		30時間				
区分	専門教育科目	選択	担当者名	齊藤 利男			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 日本史理解の基本として、日本列島における原日本人の登場から、縄文・弥生時代、邪馬台国、ヤマト王権をへて、律令国家＝古代「日本国」が誕生するまでの、古代日本の歴史を学びます。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-4に関連している。</p>									
到達目標	他の専門科目や二年度以降の専門科目の学習に必要な日本史（原始・古代史）に関する基本的知識を理解し説明できるようになり、歴史的なものの考え方や分析の方法を身につける。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	ガイダンス		本授業のねらいと計画および学習方法について説明します						講義形式	
第2回	日本列島の誕生と縄文文化		日本列島の誕生と新石器時代＝縄文時代の始まりについて学ぶ						講義形式	
第3回	縄文文化の東と西		東北・東日本で栄えた縄文文化と縄文時代の歴史を学ぶ						講義形式	
第4回	弥生時代とはどのような時代か		鉄器農耕文化、文明の第1段階としての「弥生時代」の性格を学ぶ						講義形式	
第5回	渡来人と弥生時代の開始		「稲作の伝来」と弥生時代の始まりについて学ぶ						講義形式	
第6回	弥生社会の発展と「倭国」の誕生 1		研究の発展で書きかえられた弥生時代の歴史を学ぶ						講義形式	
第7回	弥生社会の発展と「倭国」の誕生 2		奴国の登場から邪馬台国までの「倭国」の歴史を学ぶ						講義形式	
第8回	「魏志倭人伝」と邪馬台国		邪馬台国と卑弥呼の実像を学ぶ、ミニレポートはここまでの総括						講義形式	
第9回	ヤマト王権と倭王国 1		崇神王朝・応神王朝とヤマト王権の誕生を学ぶ						講義形式	
第10回	ヤマト王権と倭王国 2		古墳文化とヤマト王権による「倭国」の統合過程を学ぶ						講義形式	
第11回	統一国家「日本国」への道		ヤマト政権から律令国家への発展過程を概括する						講義形式	
第12回	「冊封体制」と「日本国」		東アジア世界の国際秩序「冊封体制」について学ぶ						講義形式	
第13回	古代統一国家「日本国」の形成 1		継体王朝の成立からヤマト王権の強大化について学ぶ						講義形式	
第14回	古代統一国家「日本国」の形成 2		乙巳の変（大化の改新）から律令国家成立に至る歴史を学ぶ						講義形式	
第15回	古代統一国家「日本国」のシステム		律令国家（古代統一国家日本）の構造（ハード面）を学ぶ						講義形式	
評価方法及び評価基準	毎回講義終了後、講義の内容に関するミニレポートを提出してもらい（15回×2点＝30点、30%）、学期末に講義の内容と到達目標に応じた定期試験を行います（70点、70%）。定期試験は答案の構成や論理性を重視し、両者を合わせて総合評価（合計100点、100%）とします。									
課題等	提出されたミニレポートは、次回の授業で紹介し（質問には回答を行います）、授業内容に反映させます。									
事前事後学修	授業に先立って教科書代わりのテキストを配布しますので、あらかじめテキストを読んで準備しておいて下さい。授業後は講義の内容とテキストを照らし合わせて、再確認したり、考える機会とするのが理想的です。									
教材教科書参考書	当方作成の講義テキスト（地図・写真・資料つき）を教材として配布します。参考書は講義の進行に合わせて指示します。									
留意点	知は力なり、そして継続も力です。講義内容に対する突っ込んだ質問を大いに歓迎します。									

科目名	日本の歴史B		科目ナンバリング	L-JSCL1-03. U	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	J56004		30時間				
区分	専門教育科目	選択	担当者名	齊藤 利男			授業 形態	講義	単独	
授業 の 概要 等	<p>【授業の主旨】 日本史理解の基本として、幕末・維新から、明治国家の成立、日清・日露戦争をへて、「大日本帝国」が成立するまでの近代日本の歴史を学び、さらに、その後の日中戦争から太平洋戦争に至る過程を展望します。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-4に関連している。</p>									
到達 目標	他の専門科目や二年度以降の専門科目の学習に必要な日本近代史（幕末・維新から日清・日露戦争をへて大日本帝国の成立まで）に関する基本的知識を理解し説明できるようになり、歴史的なものの考え方や分析の方法を身につける。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	ガイダンス		本授業のねらいを、映像を利用しながら説明します。						講義形式	
第2回	開国		ペリー来航と「開国」の実像を学ぶ						講義形式	
第3回	近代国家への課題		開国が鎖国日本に与えた衝撃について学ぶ						講義形式	
第4回	尊王攘夷と幕末の政治抗争 1		幕末の政治史を学ぶ（その1）						講義形式	
第5回	尊王攘夷と幕末の政治抗争 2		幕末の政治史を学ぶ（その2）						講義形式	
第6回	戊辰戦争と明治維新		幕末の政治史を学ぶ（その3）、ミニレポートはここまでの総括						講義形式	
第7回	明治日本の課題		明治維新後の日本が直面した課題について学ぶ						講義形式	
第8回	軍事大国路線の選択		明治政府が「軍事大国」路線を選択したことを学ぶ						講義形式	
第9回	日清戦争への道		日清戦争は何のための戦争だったのかを学ぶ						講義形式	
第10回	日清戦争圧勝と三国干渉		日清戦争の大勝利がもたらした結果について学ぶ						講義形式	
第11回	日清から日露へ		日清戦争後の日本とアジアについて学ぶ、ミニレポートはこの間の総括						講義形式	
第12回	日英同盟と日露開戦		日本が超大国ロシアと戦うことになったいきさつを学ぶ						講義形式	
第13回	日露戦争、薄氷の勝利		「日露戦争勝利」の内実とポーツマス条約の獲得物について学ぶ						講義形式	
第14回	「大日本帝国」の成立		日露戦争勝利で「大日本帝国」が成立したことを学ぶ						講義形式	
第15回	アジア太平洋戦争への道		「大日本帝国」のその後を学ぶ、ミニレポートは全体の総括						講義形式	
評価 方法 及び 評価 基準	毎回講義終了後、講義の内容に関するミニレポートを提出してもらい（15回×2点＝30点、30%）、学期末に講義の内容と到達目標に応じた定期試験を行います（70点、70%）。定期試験は答案の構成や論理性を重視し、両者を合わせて総合評価（合計100点、100%）とします。									
課題 等	提出されたミニレポートは、次回の授業で紹介し（質問には回答を行います）、授業内容に反映させます。									
事前事後 学修	授業に先立って教科書代わりのテキストを配布しますので、あらかじめテキストを読んで準備しておいて下さい。授業後は講義の内容とテキストを照らし合わせて、再確認したり、考える機会とするのが理想的です。									
教材 教科書 参考書	当方作成の講義テキスト（地図・写真・資料つき）を教材として配布します。参考書は講義の進行に合わせて指示します。									
留意 点	知は力なり、そして継続も力です。講義内容に対する突っ込んだ質問を大いに歓迎します。									

科目名	日本マンガの歴史		科目ナンバリング	L-JSCL1-04. S	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	J56005		30時間				
区分	専門教育科目	選択必修	担当者名	井上 諭一			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 いわば「文学史各論」として、20世紀日本の文学的表現におけるメインストリームの一つであるマンガの特質を歴史的な観点から考察する。近代現代の日本マンガはどのようにして世界と向き合っていたか、ほぼ1920年代から始めて2000年代に至る。なお、授業時間90分を45分で前後に分け、中間で質問を受け付けるなど、2部構成で実行する。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-4に関連している。</p>									
到達目標	近代現代の日本マンガについて、その時々メディアの状況と合わせて、また世界史的観点を含め、深く理解できるようになる。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
第1回	導入		日本マンガ前史					ディスカッションあり		
第2回	20世紀初期		風刺画、イラスト、映画との関連					ディスカッションあり		
第3回	1930年代まで		「20世紀文学」の影響					ディスカッションあり		
第4回	1930年代～40年代		戦時下文学と戦時下・終戦直後のマンガ					ディスカッションあり		
第5回	1950年代1		貸本マンガ					ディスカッションあり		
第6回	1950年代2		週刊誌の時代へ					ディスカッションあり		
第7回	1960年代1		劇画の誕生					ディスカッションあり		
第8回	1960年代2		スポーツ根性マンガ、その他					ディスカッションあり		
第9回	1970年代1		「バカ」の時代					ディスカッションあり		
第10回	1970年代2		メディアミックス					ディスカッションあり		
第11回	1980年代1		世界的ヒットとラブコメと					ディスカッションあり		
第12回	1980年代2		認知されたマンガ					ディスカッションあり		
第13回	1990年代		芸術としてのマンガ					ディスカッションあり		
第14回	2000年代		文明論としてのマンガ					ディスカッションあり		
第15回	2010年代		現在までの動向；まとめに代えて					ディスカッションあり		
評価方法及び評価基準	<p>学期末の講義時間内に試験1回を実施（持ち込み禁止、60分）。 全体の30%を講義（一部、演習的形式で行なうので、講義時間内にディスカッションの場面がある。ただし、コロナの状況によって変動）への参加度合いで評価し、試験の得点を70%として合算する。試験では、基本的な知識を修得していれば60%、歴史的な経緯について十分に理解していれば80%、自分自身の独創的な見解に至れば90%以上得点できるように問題を設定する。</p>									
課題等	毎時間、リアクションペーパーを提出する。ペーパー自体は返却しないが、質問などその内容については次の講義時間に触れる。									
事前事後学修	教科書の該当部分は常に事前に読んでおく必要がある（予習1時間必要）。また、時間の関係上、膨大なページ数のマンガ表現それ自体については、講義内で詳述できない部分があり、事後の自習（講義一回あたり3時間以上）が必須である。									
教材教科書参考書	<p>教科書 澤村修治『日本マンガ全史』ISBN-13：978-4582859447、プリントとスライドを併用 参考書；みなもと太郎「マンガの歴史1」（岩崎書店）ISBN-13：978-4265008315、『まんがでわかるまんがの歴史』（KADOKAWA ISBN-13：978-4041047972）（参考書は、購入する必要はない）</p>									
留意点	講義時間中の質疑応答だけではなく、ネット（Teams）を介しての双方向的なやり取りも積極的に行うので、受講者は適宜、Teamsに接続する必要がある。									

科目名	現代日本マンガ論		科目ナンバリング	L-JSCL2-05. S	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	J56006		30時間				
区分	専門教育科目	選択必修	担当者名	井上 諭一			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 現代日本を代表するマンガについて、多くの資料を駆使しながら、その特徴と優れているところを明らかにする。なお、授業時間90分を45分で前後に分け、中間で質問を受け付けるなど、2部構成で実行する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-4に関連している。</p>									
到達目標	世界に屹立する現代日本マンガの名作について、芸術的な価値のみならず、社会的・文化的なインパクトにも注意できるようになる。最終的にはその文明論的な意味を論じられるようになる。									
授 業 計 画										
回	主 題		授業内容・授業時間外の学修					備 考		
第1回	導入		現代日本マンガの“射程”					ディスカッションあり		
第2回	現代のファンタジーマンガ1		「ジョジョの奇妙な冒険」第3部～第6部（「スタンド」と「時間」）					ディスカッションあり		
第3回	現代のファンタジーマンガ2		「ジョジョの奇妙な冒険」第7部～第8部（「聖人」と「越えて行く」）					ディスカッションあり		
第4回	現代のファンタジーマンガ3		「鬼滅の刃」（立志編、無限列車編、遊郭編）					ディスカッションあり		
第5回	現代のファンタジーマンガ4		「鬼滅の刃」（刀鍛冶の里編、無限城編）					ディスカッションあり		
第6回	現代のSFマンガ1		「テラフォーマーズ」（生命科学）					ディスカッションあり		
第7回	現代のSFマンガ2		「空母いぶき」「空母いぶき GREAT GAME」（政治と軍事）					ディスカッションあり		
第8回	現代のその他のマンガ1		「チーズスイートホーム」その他、動物マンガ					ディスカッションあり		
第9回	現代のその他のマンガ2		「ザ・ファブル」「ザ・ファブル The second contact」					ディスカッションあり		
第10回	現代の歴史マンガ1		「ゴールデンカムイ」（北海道、黄金伝説）					ディスカッションあり		
第11回	現代の歴史マンガ2		「レッド」（過激派の末路）					ディスカッションあり		
第12回	現代の歴史マンガ3		「キングダム」（歴史とファンタジーの間：LGBTQ）					ディスカッションあり		
第13回	現代の歴史マンガ4		「達人伝 ～9万里を風に乗り～」（「キングダム」の“裏”）					ディスカッションあり		
第14回	現代のSFマンガ3		「アトム・ザ・ピギニング」（人工知能）					ディスカッションあり		
第15回	まとめ		現代日本マンガの“使命”と、未来への希望					ディスカッションあり		
評価方法及び評価基準	<p>学期末にレポートを一回課す。（3000字程度） 全体の30%を講義（一部、演習的形式で行なうので、講義時間内にディスカッションの場面がある。ただし、コロナの状況によって変動）への参加度合いで評価し、レポートの得点を70%として合算する。レポートでは、基本的な知識を修得していれば60%、他者の見解などにも触れ、自分の独創的な意見が記述できていれば80%、自分自身の見解と他者の意見とを照らし合わせて検討できていれば90%以上の得点とする。</p>									
課題等	毎時間、リアクションペーパーを提出する。ペーパー自体は返却しないが、質問などその内容については次の講義時間に触れる。									
事前事後学修	対象とする作品については、できる限り、事前に読んでおくことが望ましい。また、時間の関係上、膨大なページ数のマンガ表現それ自体については詳述できないので、事前事後の自習が必須である。講義一回につき合計10時間程度。									
教材教科書参考書	プリントとスライドを併用する。									
留意点	相当程度の量のマンガを読むことになるので、その時間と場所を確保するなど、受講者には相応の努力が求められる。また、講義時間中の質疑応答だけではなく、ネット（Teams）を介しての双方向的なやり取りも積極的に行うので、受講者は適宜、Teamsに接続する必要がある。									

科目名	日本の映像表現		科目ナンバリング	L-JSCL2-06.S	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	J56007		30時間				
区分	専門教育科目	選択必修	担当者名	井上 諭一			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 映像表現全体を取り扱うが、特に重点を置くのは日本映画の歴史である。日本における映画産業の成立と発展、また日本アニメ（ジャパニメーション）の歴史について概説する。テレビドラマについても触れる。できる限り、実際の表現に触れることができるように取り計らう。なお、授業時間90分を45分で前後に分け、中間で質問を受け付けるなど、2部構成で実行する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-4に関連している。</p>									
到達目標	映像技術の発達史を理解し、それをベースに各時代・各ジャンルの代表作品について、広範な知識を得て他者に説明できるようになる。またそれを踏まえて、自らクリエイティブな感性を発揮できるようになる。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
第1回	導入		映像の世紀について、また「日本映画」の成立について					ディスカッションあり		
第2回	映画の基礎技術		写真、(レンズ、フィルム)、音響について					ディスカッションあり		
第3回	映画1		創成期					ディスカッションあり		
第4回	映画2		第二次世界大戦終了まで；初期の小津安二郎、溝口健二、時代劇					ディスカッションあり		
第5回	映画3		1960年代まで；黒澤明、木下恵介、日活、ATG、任侠映画					ディスカッションあり		
第6回	映画4		1980年代まで；市川崑、大島渚、深作欣二					ディスカッションあり		
第7回	映画5		20世紀末まで；鈴木清順、相米慎二、森田芳光					ディスカッションあり		
第8回	映画6		21世紀；是枝裕和、周防正行、北野武、Jホラー					ディスカッションあり		
第9回	テレビ1		1980年代まで；創世記のテレビドラマ					ディスカッションあり		
第10回	テレビ2		1990年代～；黄金時代から衰退期のテレビドラマ					ディスカッションあり		
第11回	テレビ3		バラエティ番組の興亡					ディスカッションあり		
第12回	アニメ1；1970年代まで		創世期の日本アニメ、「太陽の王子ホルスの大冒険」「宇宙戦艦ヤマト」「機動戦士ガンダム」など					ディスカッションあり		
第13回	アニメ2；1980年代まで		「風の谷のナウシカ」「北斗の拳」「聖闘士星矢」など					ディスカッションあり		
第14回	アニメ3；1990年代以降		「SLIM DUNK」「美少女戦士セーラームーン」「新世紀エヴァンゲリオン」「攻殻機動隊」など					ディスカッションあり		
第15回	まとめ		映像表現における、日本独自のものは何か？					ディスカッションあり		
評価方法及び評価基準	<p>学期末にレポートを一回課す。(3000字程度) 講義の一部を演習的形式で行ない、講義時間内にディスカッションの場面がある。(コロナの状況によって変動)写真撮影・ビデオ撮影の教室内実習も行う。レポートの得点を70%、演習的部分への参加度合いを30%として合算する。レポートでは、基本的な知識を修得していれば60%、自分の独創的な意見が記述できていれば80%、自分自身の見解と他者の意見とを照らし合わせて検討できていれば90%以上の得点とする。</p>									
課題等	毎時間、リアクションペーパーを提出する。ペーパー自体は返却しないが、質問などその内容については次の講義時間に触れる。									
事前事後学修	講義時間内に映画を一本見ることはできないので、参加各人の予習復習が特に大切である。原則として、対象となる作品は事前に見ておくこと。(予習2時間以上)また、作品に関連する事項の学修には、通常、講義後に4～5時間を要する。									
教材教科書参考書	四方田犬彦「日本映画史110年」ISBN-13: 978-4087207521 プリントとスライドを併用。									
留意点	講義時間中の質疑応答だけではなく、ネット(Teams)を介しての双方向的なやり取りも積極的に行うので、受講者は適宜、Teamsに接続する必要がある。									

科目名	日本のサブカルチャー		科目ナンバリング	L-JSCL2-07.S	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	J56008		30時間				
区分	専門教育科目	選択必修	担当者名	鎌田 学			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 “Cool Japan”と言われて久しい日本の文化（産業）について理解を深める。ダンス、演劇、漫画、アニメ、ゲーム、アイドル、ファッションなど広範な領域の大衆文化、あるいはサブカルチャーについて、参加者が独自にケーススタディを展開し個人発表を行う。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-4に関連している。</p>									
到達目標	各自独自の視点から、広義の「日本の文化、サブカルチャー」について調べ、発表できるようになること。また、戦後から今日までの日本文化のあり方を、諸外国との関連・関係において捉えられるようになること。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	ガイダンス			授業の目的と方法について						
第2回	外国人から見たニッポン			“Cool Japan”論を読む					ディスカッション	
第3回	外国人から見たニッポン②			“Cool Japan”論を読む					ディスカッション	
第4回	外国人から見たニッポン③			“Cool Japan”論を読む					ディスカッション	
第5回	戦後サブカルチャー史			80年代を映像で概観する					ディスカッション	
第6回	戦後サブカルチャー史②			90年代を映像で概観する					ディスカッション	
第7回	戦後サブカルチャー史③			00年代を映像で概観する					ディスカッション	
第8回	個人発表			質疑応答					プレゼンテーション& ディスカッション	
第9回	個人発表②			質疑応答					プレゼンテーション& ディスカッション	
第10回	個人発表③			質疑応答					プレゼンテーション& ディスカッション	
第11回	個人発表④			質疑応答					プレゼンテーション& ディスカッション	
第12回	個人発表⑤			質疑応答					プレゼンテーション& ディスカッション	
第13回	個人発表⑥			質疑応答					プレゼンテーション& ディスカッション	
第14回	個人発表⑦			質疑応答					プレゼンテーション& ディスカッション	
第15回	まとめ			授業のまとめ						
評価方法及び評価基準	授業への参加度（50%）、個人発表（50%）。後者の評価は、内容、論理的構成、表現力の観点によって行う。									
課題等	文献コピーを予め熟読する、発表のスライドを作成する等。									
事前事後学修	予習に3時間程度必要。また、発表のための材料集めを不断に行うこと。									
教材教科書参考書	コピーにて配布。									
留意点	学科問わず、国際文化交流に関心のある人はぜひ参加されたい。									

科目名	日本の民俗芸能		科目ナンバリング	L-JSCL2-08. S	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	J56009		30時間				
区分	専門教育科目	選択必修	担当者名	下田 雄次			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 日本の代表的な民俗芸能を取り上げて、その特質や地域性を考える。併せて本学の立地地域である青森県及び近隣県の民俗芸能についても理解を深める。映像資料を用いて、その実態を理解する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5に関連している。</p>									
到達目標	日本の民俗芸能の基礎的事項について説明することができる。 民俗芸能を通して、日本の伝統文化の特質を説明することができる。									
授 業 計 画										
回	主 題		授業内容・授業時間外の学修					備 考		
第1回	ガイダンス		授業内容についてガイダンスする。また、レポートと感想文の説明をする。					講義形式		
第2回	日本の民俗芸能の特質と系統①		日本の民俗芸能の特質や系統について講義を行う。映像資料を参照しながら講義を進める。					講義形式		
第3回	日本の民俗芸能の特質と系統② 北東北の民俗芸能の概要		日本の民俗芸能の特質や系統について講義を行う。併せて、北東北の民俗芸能についても言及する。映像資料を参照しながら講義を進める。					講義形式		
第4回	獅子舞・獅子踊り (一人立ち・二人立ち)		「獅子踊り・獅子舞」に関して歴史を踏まえながら講義を行う。あわせて地域的特性について言及する。事前に授業で学ぶ芸能について調べておくこと(実見や映像の視聴ができれば尚良い)。					講義形式		
第5回	神楽系統の芸能 湯立て神楽		「湯立て神楽」に関して、歴史を踏まえながら講義を行う。事前に授業で学ぶ芸能について調べておくこと(実見や映像の視聴ができれば尚良い)。					講義形式		
第6回	神楽系統の芸能 山伏神楽		「山伏神楽」に関して、歴史を踏まえながら講義を行う。事前に授業で学ぶ芸能について調べておくこと(実見や映像の視聴ができれば尚良い)。					講義形式		
第7回	田楽系統の芸能 田楽 田植神事		「田楽」や「田植神事」に関して、歴史を踏まえながら講義を行う。事前に授業で学ぶ芸能について調べておくこと(実見や映像の視聴ができれば尚良い)。					講義形式		
第8回	風流系統の芸能・祭り やすらい花 祇園祭り		京都の「やすらい花」や「祇園祭」に関して、歴史を踏まえながら講義を行う。事前に授業で学ぶ芸能について調べておくこと(実見や映像の視聴ができれば尚良い)。					講義形式		
第9回	外来系統の芸能 祝福芸系統の芸能		外来系統の芸能や祝福芸系統の芸能に関して、歴史を踏まえながら講義を行う。事前に授業で学ぶ芸能について調べておくこと(実見や映像の視聴ができれば尚良い)。					講義形式		
第10回	青森県内の芸能・祭り①		青森県内津軽地方の芸能・祭りに関して、これまで学んだ芸能の特質に関する事項を振り返りながら講義を行う。事前に授業で学ぶ芸能について調べておくこと(実見や映像の視聴ができれば尚良い)。					講義形式		
第11回	青森県内の芸能・祭り②		青森県内下北地方・南部地方の芸能・祭りに関して、これまで学んだ芸能の特質に関する事項を振り返りながら、講義を行う。事前に授業で学ぶ芸能について調べておくこと。					講義形式		
第12回	芸能の身体と音楽①		日本の無形文化である民俗芸能の基本的な身体技法や音楽について歴史を踏まえながら講義を行う。あわせて、芸能の身体技法や音楽の体験的な学習も行う。					講義形式		
第13回	芸能の身体と音楽② レポート提出期限		日本の無形文化である民俗芸能の基本的な身体技法や音楽について歴史を踏まえながら講義を行う。あわせて、芸能の身体技法や音楽の体験的な学習も行う。					講義形式		
第14回	ネプタ・ネプタ行事について考える		ネプタ・ネプタについてディスカッションを行う。テーマを提示し、議論を展開する。テーマについては祭りの現場で発生してきた問題を当事者・外部者という両極の視点に立脚しながら議論を行う。					ディスカッション		
第15回	まとめと小テスト 感想文提出期限		問題を解きながら、これまでの授業内容を確認する。							
評価方法及び評価基準	レポート50%、「山車展示館」の感想文20%、小テスト30%。さらにリアクションペーパー(任意)も評価対象とする。レポートは地域の芸能についての理解度で評価する。実際に伝承者の方々を訪ねて聞き書きができれば尚良い。時数は1600~2000字程度とする。「山車展示館」の感想文は、300字程度とする。小テストでは、授業内容をまとめるとともに問題点を一つ設定し、それについて自分なりの考えを述べることをできたかを問う。									
課題等	レポートと感想文									
事前事後学修	毎回、事前・事後の学習時間は、90分ずつとする。									
教材教科書参考書	テキストは使用しない。適宜プリントを配布する。									
留意点	毎回リアクションペーパーを提出してもらい、相互理解・コミュニケーションを深めたい。									

科目名	中国文学概論 (中国文学史を含む)		科目ナンバリング	L-JSCL1-20. J	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	J56010		30時間				
区分	専門教育科目	必修	担当者名	中屋敷 宏			授業 形態	講義	単独	
授業 の 概要 等	<p>【授業の主旨】</p> <p>中国の漢時代から唐時代までの代表的な詩を読み、詩人と時代との関係を考える。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5に関連している。</p>									
到達 目標	日本の和歌・俳句とは全く異質な感性で書かれている中国の詩を理解する。									
授 業 計 画										
回	主 題		授業内容・授業時間外の学修						備 考	
第1回	中国の文学論		「詩経」序の文学論から中国の文学に対する基本的な考え方を説明する							
第2回	詩経と楚辞		中国文学の起源である二つの詩集の代表的作品を読む							
第3回	英雄の詩		項羽、劉邦、武帝という三人の英雄の詩を読み、それぞれの人間性について考える							
第4回	楽府詩(1)－離別の詩		楽府詩の中の離別の悲しみを歌った詩を通して戦争の悲惨さを考える							
第5回	楽府詩(2)－兵士の詩		兵士が残した詩を読み、兵士の運命について考える							
第6回	楽府詩(3)－漢代 女性の詩		宮廷の女性と民間の女性との詩を対比する							
第7回	古詩十九首の世界		無常観と享樂の詩 両者の関係を後漢という時代を背景として考える							
第8回	曹操一族の詩		曹操、曹丕、曹植の代表的な詩を読む							
第9回	陶淵明の詩		田園詩人と称される詩人の自然と人生に対する態度を詩を通して考える							
第10回	李白の詩		李白の代表的な詩を読み、李白という人間について考える							
第11回	杜甫の詩(1)		安祿山の乱の中で作った作品を読み、杜甫の時代への感情を考える							
第12回	杜甫の詩(2)		晩年の作品－人生への深い洞察について考える							
第13回	白楽天の詩		中唐を代表する白楽天の人生に対する態度の変化を考える							
第14回	晩唐の詩		杜牧、李商隱の詩を読み、晩唐という時代を考える							
第15回	まとめ＋試験		これまでのまとめをするとともに筆記試験を行う							
評価 方法 及び 評価 基準	試験50% 授業への参加度50%									
課題 等	適宜指示します									
事前 事後 学修	中国文学史、中国思想史に関する書籍を積極的に読むこと									
教材 教科書 参考書	テキストは作成してプリントとして配布する									
留意 点	自分の感性、思考を自由に表現する訓練として評価する									

科目名	中国文学講読 A		科目ナンバリング	L-JSCL2-21.UJ	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	J55002		30時間				
区分	専門教育科目	選択	担当者名	中屋敷 宏			授業 形態	講義	単独	
	教員免許	選択必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 儒教形成の基盤となった古代王朝から孔子による儒教形成までの歴史を追う。また、儒教思想の対極にある現実主義思想家についても考える。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5に関連している。</p>									
到達目標	中国文学の根底にあるのは一兎精神を儒教思想を通して理解する。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	思想とは何か			思想についての規定、構成、要因について						
第2回	一聖王伝説の持つ意味			堯舜禹という伝説の聖人は何を表現しているのか。歴史以前の社会の記憶として考える。						
第3回	古代王朝と宗教			夏、殷、周という王朝における宗教の姿と役割を考える						
第4回	儒教思想の形成			孔子による儒教思想の形成を春秋時代という時代の中で考える						
第5回	論語の思想Ⅰ			徳治政治論について						
第6回	論語の思想Ⅱ			人間論－「仁」の精神について						
第7回	論語の思想Ⅲ			学問論－人格形成のための学問の方法論						
第8回	論語の思想Ⅳ			処世論－人間は現世に対してどのような態度で生きるべきか						
第9回	論語の思想Ⅴ			孔子自身を語る 聖人と異なる人間像を見る						
第10回	儒教思想の展開			戦国時代という時代の中で孟子は儒教をどう展開したか						
第11回	儒教思想の展開			性善説－孔子の人間論の戦国時代における展開						
第12回	儒教思想の展開			晩年の孟子－民本説、人性論について						
第13回	現実主義の思想家1			商鞅と呉子の思想と人生						
第14回	現実主義の思想家2			孫子と孫臏の思想と人生						
第15回	まとめ、試験			これまでのまとめをするとともに筆記試験を行う						
評価方法及び評価基準	授業への参加度50% 試験50%									
課題等	適宜指示します									
事前事後学修	中国文学史、中国思想史に関する書籍を積極的に読むこと									
教材教科書参考書	教材はプリントとして作成する									
留意点	自分自身の人生、思想について考える機会になればよい。									

科目名	中国文学講読B		科目ナンバリング	L-JSCL2-22.UJ	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	J55003		30時間				
区分	専門教育科目	選択	担当者名	中屋敷 宏			授業 形態	講義	単独	
	教員免許	選択必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>儒教思想が法家思想に展開していく歴史過程を追う。最後に中国思想の性格について、総括的に考察する。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5に関連している。</p>									
到達目標	富国強兵、弱肉強食という社会論理の中で理想社会を作るための思想家の苦闘を考える									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	荀子の思想 I			天論、儒教の天命論へのアンチテーゼ、儒教思想の転回を考える						
第2回	荀子の思想 II			性悪説 孟子の性善説の否定－人間観の展換						
第3回	荀子の思想 III			礼論、人間社会はいかなる規則で統治されるべきか－「礼」について						
第4回	荀子の思想 IV			聖人論－統治者はいかなる人間でなければならないか、統治者の資格について						
第5回	荀子の思想 V			天下統一論と荀子思想の限界						
第6回	韓非子の思想 I			人間観－私欲の固りとしての人間						
第7回	韓非子の思想 II			利己主義としての人間をいかにして統治するか、法刑による統治						
第8回	韓非子の思想 III			聖人の治－聖人の治は人間を無欲化する						
第9回	老子の思想 I			無差別、平等の世界こそが理想世界である＝儒教批判						
第10回	老子の思想 II			人間は欲を捨てることで自由となる－処世論						
第11回	老子の思想 III			理悪社会論 - 小国寡民のユートピア						
第12回	中国思想の統括 I			儒教的理想主義と非情な現実主義						
第13回	中国思想の統括 II			超越の思想は成立するのか、儒教と老荘思想						
第14回	中国思想の統括 III			中国思想にはなぜ「個人としての人間」が欠如しているのか						
第15回	まとめ＋試験			これまでのまとめをするとともに筆記試験を行う						
評価方法及び評価基準	試験50% 授業への参加度50%									
課題等	適宜指示します									
事前事後学修	中国文学史、中国思想史に関する書籍を積極的に読むこと									
教材教科書参考書	プリントを使用									
留意点	いろいろな人間の考え方から十分に栄養を吸収すること									

科目名	日本文化演習 I A		科目ナンバリング	L-JSCL3-30. S	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目コード	J56011		30時間				
区分	専門教育科目	選択必修	担当者名	井上 諭一			授業 形態	演習	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 主として1990年代以降に書かれた小説、映画、マンガを核として、その周辺の状況（政治、経済、その他）にも注意を払い、時代と文化の双方を考察する。この間の科学技術の発展についても検討する。対象とする作家・作品は履修者との協議で決定する。原則として個人での発表とし、グループ発表は行わない。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-4に関連している。</p>									
到達目標	複雑なメディアミックス的状况について、的確に整理することが出来るようになる。またその歴史的意味について、自分なりに考え発言することが出来るようになる。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	導入			1990年代の時代状況				ディスカッションあり		
第2回	基礎的理論			発表のための基礎的理論概説（あるいは、文化社会学的立場について）				ディスカッションあり		
第3回	手順			発表の具体的手順について				ディスカッションあり		
第4回	発表第1回			学生による発表、質疑応答。予習必要。				ディスカッション45分		
第5回	発表第2回			学生による発表、質疑応答。予習必要。				ディスカッション45分		
第6回	発表第3回			学生による発表、質疑応答。予習必要。				ディスカッション45分		
第7回	発表第4回			学生による発表、質疑応答。予習必要。				ディスカッション45分		
第8回	発表第5回			学生による発表、質疑応答。予習必要。				ディスカッション45分		
第9回	中間討論会			これまでの発表を踏まえて、やや総括的な討論を行う。				この回は全てディスカッション		
第10回	発表第6回			学生による発表、質疑応答。予習必要。				ディスカッション45分		
第11回	発表第7回			学生による発表、質疑応答。予習必要。				ディスカッション45分		
第12回	発表第8回			学生による発表、質疑応答。予習必要。				ディスカッション45分		
第13回	発表第9回			学生による発表、質疑応答。予習必要。				ディスカッション45分		
第14回	発表第10回			学生による発表、質疑応答。予習必要。				ディスカッション45分		
第15回	まとめ			総括討論				全時間ディスカッション		
評価方法及び評価基準	発表結果（50点満点）、質疑応答への参加状況（50点満点）を総合。発表では、概ね歴史的な整理ができれば65%、対象とするテキストについて自分の意見を述べることであれば75%、テキストと文化の両方について、他者の見解を参照しつつ自分の意見を客観的に述べることであれば90%以上の得点とする。									
課題等	前週までに、適宜指示する									
事前事後学修	対象となる作品については、事前に読了しておく必要がある。（作品により異なるが、平均で一回あたり3～4時間程度の予習必要）また、演習中に発見された問題については、事後に学修が必要。（平均4～5時間）									
教材教科書参考書	発表内容により異なるので、事前には指定しない。複数の判型がある場合には、出来る限り安価なテキストを用いる。参考書は適宜指示する。									
留意点	Webを利用した授業、ICTを活用した授業として、演習時間中には参加者全員がWi-Fiに接続し、いわば「調べながら討論する」ことを前提とする。接続できる端末がない場合は、科目担当者（井上）が用意する。資料等は出来る限り事前にクラウドにアップし、効率良い勉強をするように心がける。									

科目名	日本文化演習 I B		科目ナンバリング	L-JSCL3-31. S	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期
			科目コード	J56012		30時間				
区分	専門教育科目	選択必修	担当者名	井上 諭一			授業 形態	演習	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 マンガ、小説、映画を核として研究するところは「IA」と同じだが、この「IB」では、原則として2010年以降のものに対象を絞る。コンピューター、インターネット的状况の発展については、特に注意を払う。対象とする作家作品は履修者との協議で決定する。原則として個人での発表とし、グループ発表は行なわない。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-4に関連している。</p>									
到達目標	<p>複雑なメディアミックス的状况について、的確に整理することが出来るようになる。またその歴史的意味、ひいては将来的展望について、自分なりに考え発言することができ、時には自ら創作の一端を担うことができるようになる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題	授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修							備 考	
第1回	導入	時代状況、発表手順の確認、発表順の決定							ディスカッションあり	
第2回	発表第1回	学生による発表、質疑応答。予習必要。							ディスカッション45分	
第3回	発表第2回	学生による発表、質疑応答。予習必要。							ディスカッション45分	
第4回	発表第3回	学生による発表、質疑応答。予習必要。							ディスカッション45分	
第5回	発表第4回	学生による発表、質疑応答。予習必要。							ディスカッション45分	
第6回	発表第5回	学生による発表、質疑応答。予習必要。							ディスカッション45分	
第7回	発表第6回	学生による発表、質疑応答。予習必要。							ディスカッション45分	
第8回	中間討論	補足発表と、これまでの議論を踏まえてのやや包括的なディスカッションを行う							ディスカッション45分	
第9回	発表第7回	学生による発表、質疑応答。予習必要。							ディスカッション45分	
第10回	発表第8回	学生による発表、質疑応答。予習必要。							ディスカッション45分	
第11回	発表第9回	学生による発表、質疑応答。予習必要。							ディスカッション45分	
第12回	発表第10回	学生による発表、質疑応答。予習必要。							ディスカッション45分	
第13回	発表第11回	学生による発表、質疑応答。予習必要。							ディスカッション45分	
第14回	発表第12回	学生による発表、質疑応答。予習必要。							ディスカッション45分	
第15回	まとめ	総括討論；これまでの議論を踏まえての包括的なディスカッションを行う							この回は全てディスカッション	
評価方法及び評価基準	<p>発表結果（50点満点）、質疑応答への参加状況（50点満点）を総合。発表では、概ね歴史的な整理ができれば65%、対象とするテキストについて自分の意見を述べることであれば75%、テキストと文化の両方について、他者の見解を参照しつつ自分の意見を客観的に述べることであれば90%以上の得点とする。</p>									
課題等	適宜指示する									
事前事後学修	<p>対象となる作品については、事前に読了しておく必要がある。（作品により異なるが、前期開講の「A」より勉強量が増えると思われる、平均で一回あたり4～5時間程度の予習必要）また、演習中に発見された問題については、事後に学修が必要。（平均3～4時間）</p>									
教材教科書参考書	<p>発表内容により異なるので、事前には指定しない。複数の判型がある場合には、出来る限り安価なテキストを用いる。参考書は適宜指示する。</p>									
留意点	<p>「日本文化演習 I A」を履修済みであることが望ましいが、それを履修の条件とはしていない。Webを利用した授業、ICTを活用した授業として、演習時間中には参加者全員がWi-Fiに接続し、いわば「調べながら討論する」ことを前提とする。接続できる端末がない場合は、科目担当者（井上）が用意する。資料等は出来る限り事前にクラウドにアップし、効率良い勉強をするように心がける。</p>									

科目名	日本文化研究 A		科目ナンバリング	L-JSCL3-10. U	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目コード	J56021		30時間				
区分	専門教育科目	選択	担当者名	鎌田 学			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 大森貝塚を発見したことで知られる米の生物学者エドワード・モース(1838-1925)の滞在日記『日本その日その日』(1917)を読む。明治の日本人をどのように観察し、文化的な差異をどう語っていたかを探りたい。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-4に関連している。</p>									
到達目標	文章読解力を高めるとともに、近代日本と日本人のあり方について理解を深める。									
授 業 計 画										
回	主 題		授業内容・授業時間外の学修						備考	
第1回	ガイダンス		授業の進め方							
第2回	1877年の日本、日光への旅		講読、問題提起						プレゼンテーション & ディスカッション	
第3回	日光の諸寺院と山の村落、再び東京へ		講読、問題提起						プレゼンテーション & ディスカッション	
第4回	大学の教授職と江の島実験所、漁村の生活		講読、問題提起						プレゼンテーション & ディスカッション	
第5回	江の島での採集、東京の生活		講読、問題提起						プレゼンテーション & ディスカッション	
第6回	大学の仕事、大森に於ける古代の陶器と貝塚		講読、問題提起						プレゼンテーション & ディスカッション	
第7回	六か月後の東京、北方の島 蝦夷		講読、問題提起						プレゼンテーション & ディスカッション	
第8回	アイヌ、函館及び東京への帰還		講読、問題提起						プレゼンテーション & ディスカッション	
第9回	日本のひと冬、長崎と鹿児島とへ		講読、問題提起						プレゼンテーション & ディスカッション	
第10回	南方の旅、講義と社交		講読、問題提起						プレゼンテーション & ディスカッション	
第11回	1882年の日本、陸路京都へ		講読、問題提起						プレゼンテーション & ディスカッション	
第12回	瀬戸内海、京都及びその付近での陶器さがし		講読、問題提起						プレゼンテーション & ディスカッション	
第13回	東京に関する覚書		講読、問題提起						プレゼンテーション & ディスカッション	
第14回	鷹狩その他		講読、問題提起						プレゼンテーション & ディスカッション	
第15回	まとめ		全体をまとめる						プレゼンテーション & ディスカッション	
評価方法及び評価基準	授業への参加度(50%)、期末試験(50%)。後者の評価は、小論文の内容、論理的構成、表現の正確さの観点によって行う。									
課題等	事前に予定範囲を必ず読んでおくこと。									
事前事後学修	予習に3時間程度必要。									
教材教科書参考書	『日本その日その日』(エドワード・シルヴェスター・モース、石川欣一訳、講談社学術文庫1100円、ISBN978-4062921787)									
留意点	初回時に必ず教科書持参。									

科目名	日本文化演習ⅡA		科目ナンバリング	L-JSCL4-40.S	単位数 時間	2単位	対象 学年	4年	開講 学期	前期
			科目コード	J56013		30時間				
区分	専門教育科目	選択必修	担当者名	井上 諭一			授業 形態	演習	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 参加各人の興味あるテキスト（多くは卒業論文と関係する）を選び、最近の代表的な論文をそれに併せて批判的に読んで行く。議論の領域は、狭義の「文化」にとどまらない。発表対象作品は、参加する各人の希望によって決める。また、原則として発表は個人で行なうものとし、グループ発表は行なわない。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-4に関連している。</p>									
到達目標	<p>一般的な文学理論（批評理論）を各自の「読み」「解釈」に結びつけて行く、その手順を体得する。最終目標は、新しく力強く、魅力的な読みにたどり着くことであるが、社会・世界との接点は常に忘れない。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	導入；文化社会学的立場について			基本的な学問的立場の確認、発表順の決定				ディスカッションあり		
第2回	予備的な討論			問題意識の洗い出し				ディスカッションあり		
第3回	発表第1回			学生による発表、質疑応答。予習必要。				ディスカッション45分		
第4回	発表第2回			学生による発表、質疑応答。予習必要。				ディスカッション45分		
第5回	発表第3回			学生による発表、質疑応答。予習必要。				ディスカッション45分		
第6回	発表第4回			学生による発表、質疑応答。予習必要。				ディスカッション45分		
第7回	発表第5回			学生による発表、質疑応答。予習必要。				ディスカッション45分		
第8回	中間討論			補足発表と、これまでの議論を踏まえてのやや包括的な討論				ディスカッション45分		
第9回	発表第6回			学生による発表、質疑応答。予習必要。				ディスカッション45分		
第10回	発表第7回			学生による発表、質疑応答。予習必要。				ディスカッション45分		
第11回	発表第8回			学生による発表、質疑応答。予習必要。				ディスカッション45分		
第12回	発表第9回			学生による発表、質疑応答。予習必要。				ディスカッション45分		
第13回	発表第10回			学生による発表、質疑応答。予習必要。				ディスカッション45分		
第14回	発表第11回			学生による発表、質疑応答。予習必要。				ディスカッションあり		
第15回	まとめ			総括討論				全時間、ディスカッションに当てる		
評価方法及び評価基準	<p>発表結果（50点満点）、質疑応答への参加状況（50点満点）を総合。発表では、概ね歴史的な整理ができれば65%、対象とするテキストについて自分の意見を述べることであれば75%、テキストと文化の両方について、他者の見解を参照しつつ自分の意見を客観的に述べることであれば90%以上の得点とする。</p>									
課題等	<p>適宜指示する</p>									
事前事後学修	<p>対象となる作品については、事前に読了しておく必要がある。（予習2～3時間）また、演習中に発見された問題については、上級学年らしい自学自習が期待される。（事後学修2～10時間）</p>									
教材教科書参考書	<p>発表内容により異なるので、事前には指定しない。複数の版型がある場合には、出来る限り安価なテキストを用いる。参考書は、発表内容に応じて適宜指示する。</p>									
留意点	<p>発表や質疑応答において、高い水準が要求される。Webを利用した授業、ICTを活用した授業として、演習時間中には参加者全員がWi-Fiに接続し、いわば「調べながら討論する」ことを前提とする。接続できる端末がない場合は、科目担当者（井上）が用意する。資料等はできる限り事前にクラウドにアップし、効率良い勉強をするように心がける。</p>									

科目名	日本文化演習ⅡB		科目ナンバリング	L-JSCL4-41.S	単位数 時間	2単位	対象 学年	4年	開講 学期	後期
			科目コード	J56014		30時間				
区分	専門教育科目	選択必修	担当者名	井上 諭一			授業 形態	演習	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 参加各人の興味あるテキストを選び、最近の代表的な論文をそれに併せて批判的に読んで行く。議論の領域は、狭義の“文化”にとどまらない。発表対象作品は、参加する各人の希望によって決める。また、原則として発表は個人で行なうものとし、グループ発表は行なわない。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-4に関連している。</p>									
到達目標	<p>文学理論（批評理論）を各自の“読み”に結びつけて議論して行くが、常に現実の身体・世界との結びつきを念頭に置き、最終的には現代文化の全体像とみずからの考え方について、決定的な手がかりを得る。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修				備 考		
第1回	導入			発表順の決定				ディスカッションあり		
第2回	予備的な討論			問題意識の洗い出し				ディスカッションあり		
第3回	発表第1回			学生による発表、質疑応答。予習必要。				ディスカッション45分		
第4回	発表第2回			学生による発表、質疑応答。予習必要。				ディスカッション45分		
第5回	発表第3回			学生による発表、質疑応答。予習必要。				ディスカッション45分		
第6回	発表第4回			学生による発表、質疑応答。予習必要。				ディスカッション45分		
第7回	発表第5回			学生による発表、質疑応答。予習必要。				ディスカッション45分		
第8回	中間討論			補足発表と、これまでの議論を踏まえてのやや包括的な討論				ディスカッション45分		
第9回	発表第6回			学生による発表、質疑応答。予習必要。				ディスカッション45分		
第10回	発表第7回			学生による発表、質疑応答。予習必要。				ディスカッション45分		
第11回	発表第8回			学生による発表、質疑応答。予習必要。				ディスカッション45分		
第12回	発表第9回			学生による発表、質疑応答。予習必要。				ディスカッション45分		
第13回	発表第10回			学生による発表、質疑応答。予習必要。				ディスカッション45分		
第14回	発表第11回			学生による発表、質疑応答。予習必要。				ディスカッション45分		
第15回	まとめ			総括討論				全時間をディスカッションに当てる		
評価方法及び評価基準	<p>表結果（50点満点）、質疑応答への参加状況（50点満点）を総合。発表では、概ね歴史的な整理ができれば65%、対象とするテキストについて自分の意見を述べることであれば75%、テキストと文化の両方について、他者の見解を参照しつつ自分の意見を客観的に述べることであれば90%以上の得点とする。</p>									
課題等	適宜指示する									
事前事後学修	<p>対象となる作品については、事前に読了しておく必要がある。（予習2～3時間）また、演習中に発見された問題については、上級学年らしい、しかも最終学期らしい、十分な自学自習が期待される。（事後学修5～10時間）</p>									
教材教科書参考書	<p>発表内容により異なるので、事前には指定しない。複数の版型がある場合には、出来る限り安価なテキストを用いる。参考書は、発表内容に応じて適宜指示する。</p>									
留意点	<p>上級学年に対する開講科目であり、かつ、後期の開講であるから、最も高い水準に達するよう、履修者も教員も共に努力しなければならない。Webを利用した授業、ICTを活用した授業として、演習時間中には参加者全員がWi-Fiに接続し、いわば「調べながら討論する」ことを前提とする。接続できる端末がない場合は、科目担当者（井上）が用意する。資料等は出来る限り事前にクラウドにアップし、効率良い勉強をするように心がける。</p>									

科目名	卒業論文		科目ナンバリング	L-JSTH4-00. J	単位数 時間	4単位	対象 学年	4年	開講 学期	通年
			科目コード	J41410		60時間				
区分	専門教育科目	必修	担当者名	井上 諭一				授業 形態	演習	単独
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 自分自身の意志により問題を発見し、考え、解決していく。具体的には概ね毎週1回の指導を受け、前期中は主に調査を、後期には執筆を行う。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-4に関連している。</p>									
到達目標	<p>研究上の倫理を守って研究を進める手順を体得し、論文を完成させることができる。狭い視野に陥らず、時代と文化、自分の立ち位置を見極めることができるようになる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考	回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考			
第1回	導入	先行研究1	ディスカッションあり	第16回	成果1	夏期の成果発表	ディスカッションあり			
第2回	構想1	研究範囲の絞り込み方	ディスカッションあり	第17回	構想4	構想の修正	ディスカッションあり			
第3回	先行研究1	参考文献リストの作り方1	ディスカッションあり	第18回	構想5	構想提出（章立て）	ディスカッションあり			
第4回	先行研究2	参考文献リストの作り方2	ディスカッションあり	第19回	執筆1	草稿の検討1	ディスカッションあり			
第5回	先行研究3	参考文献の集め方と読み方	ディスカッションあり	第20回	執筆2	草稿の検討2	ディスカッションあり			
第6回	読破のための技術1	基礎的理論	ディスカッションあり	第21回	執筆3	草稿の検討3	ディスカッションあり			
第7回	読破のための技術2	物語論	ディスカッションあり	第22回	執筆4	草稿の検討4	ディスカッションあり			
第8回	読破のための技術3	読者論	ディスカッションあり	第23回	執筆5	完成原稿点検	ディスカッションあり			
第9回	読破のための技術4	脱構築	ディスカッションあり	第24回	提出	印刷製本上の注意など	ディスカッションあり			
第10回	読破のための技術5	間テキスト	ディスカッションあり	第25回	提出後指導1	口頭試問へ向けて1	ディスカッションあり			
第11回	読破のための技術6	文化批評	ディスカッションあり	第26回	提出後指導2	口頭試問へ向けて2	ディスカッションあり			
第12回	先行研究4	リスト点検	ディスカッションあり	第27回	発表	卒論発表会指導	ディスカッションあり			
第13回	構想2	初期構想；倫理的な検討を含む	ディスカッションあり	第28回	事後指導	卒業後の研究について	ディスカッションあり			
第14回	先行研究5	参考文献の確認	ディスカッションあり	第29回	将来	将来目標の洗い出し	ディスカッションあり			
第15回	構想3	夏期休業中の取り組み	ディスカッションあり	第30回	すべてを振り返って	全体反省会	全時間ディスカッション			
評価方法及び評価基準	<p>完成した論文に対する評価（80点満点）、口頭試問の結果（20点満点）を総合する。原則として、卒論発表会での発表を義務付ける。（コロナの状況によって変動）過去の研究をなぞるだけでは不可。論文への評価としては、対象とするテキストについて、批評理論と研究史を踏まえて自分の意見を述べることであれば65%、テキストと文化の両方について意見を述べることであれば80%とし、先行研究との関係において自分を客観視できていれば90%、その成果が真に独創的なものであれば95%以上とする。</p>									
課題等	適宜指示する									
事前事後学修	<p>教科書について、全てを詳述することはできないので、卒論指導のタイミングに合わせて事前に2時間程度、事後に4時間程度の学修が要請される場所である。もちろん、これは卒業論文本体についての学修時間や執筆時間を含んでいない。</p>									
教材教科書参考書	<p>ピーター・バリー 著／高橋一久 監訳 『文学理論講義 新しいスタンダード』（ミネルヴァ書房、2014）ISBN-13: 978-4623070435</p>									
留意点	<p>担当者（井上）の「日本文化演習ⅠA/B」を単位修得済みであることが望ましい。また、この科目と並行して「日本文化演習ⅡA/B」を履修すること。年度末の「卒論発表会」には、原則として全員参加を義務付ける。時間中の質疑応答だけでなく、ネット（Teams）を介しての双方向的なやり取りも積極的に行うので、受講者は適宜、Teamsに接続する必要がある。</p>									

科目名	卒業論文		科目ナンバリング	L-JSTH4-00. J	単位数 時間	4単位	対象 学年	4年	開講 学期	通年
			科目コード	J41413		60時間				
区分	専門教育科目	必修	担当者名	今村 かほる				授業 形態	演習	単独
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 学問の集大成として、卒業論文を書く。特に先行研究についてきちんと精査したうえで、論理的にそれを超えていけるようにする 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-2に関連している。</p>									
到達目標	先行研究・仮説・調査に基づく学術的考察をし、学術論文として新知見を得る。									
授 業 計 画										
回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考	回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考			
第1回	論文を書くということ	学術論文の特徴について知る		第16回	資料整理	調査で得られた情報の整理				
第2回	論文の構成	論文の基本的構成とルール		第17回	資料整理	調査で得られた情報の整理				
第3回	先行研究の求め方	基本的な参考図書と文献検索の仕方を学ぶ		第18回	資料整理	調査で得られた情報の整理				
第4回	先行研究調査	参考図書と刊行図書の参考文献リストを作成し、所在確認をする		第19回	分析	データを算出・整理して分析する				
第5回	先行研究調査	論文資料リストを作成し、所在確認をする。Web上のアーカイブで入手する方法を知る。		第20回	分析	先行研究等との比較・考察				
第6回	仮説の求め方	仮説とは何かを知る。先行研究をまとめ、明らかになっていることを整理する		第21回	分析	先行研究等との比較・考察				
第7回	仮説の求め方	先行研究では明らかになっていないことをまとめ、研究の新規性を確認する		第22回	執筆	基本構成に従い、枠組みを決める				
第8回	調査計画	仮説の検証方法としての研究方法		第23回	執筆	仮説と結論の関係を確認する				
第9回	調査計画	調査計画を立てるための情報収集		第24回	執筆	全体構成の確認と補充				
第10回	調査計画	調査計画を立てるための情報収集		第25回	校正	提出前指導・校正				
第11回	調査準備	調査に必要な手順の確認と必要な機材・資料等を準備する		第26回	校正	提出前指導・校正				
第12回	調査準備	調査に必要な手順の確認と必要な機材・資料等を準備する		第27回	校正	提出前指導・校正				
第13回	調査準備	外部への連絡と、機器操作、印刷		第28回	発表準備	ゼミ内発表会				
第14回	調査実施	調査の実施		第29回	発表	ゼミ内発表会				
第15回	調査実施	調査の実施		第30回	総括	口頭試問とは何かを知り、準備する				
評価方法及び評価基準	講義時のコメント20%・提出物20%・レポート60% 研究を計画的に進めることができ、学術研究の意義を持つ論文が書けているかについて評価する。									
課題等	適宜指示します。									
事前事後学修										
教材教科書参考書	特になし									
留意点	弘前大学図書館との共通利用証を準備すること。提出後、卒業論文発表会で発表すること。									

科目名	卒業論文		科目ナンバリング	L-JSTH4-00. J	単位数 時間	4単位	対象 学年	4年	開講 学期	通年
			科目コード	J41411		60時間				
区分	専門教育科目	必修	担当者名	顧 偉良			授業 形態	演習	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 人文科学の意義は、言葉の文化及び歴史に対する検証にある。卒業論文は、作家や作品をめぐって自らの問題意識の発見、及び文章の企画力を鍛える知的活動として位置付けられている。作品の時代背景、検証方法などをめぐって指導する。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-3に関連している。</p>									
到達目標	問題意識をはっきりさせ、先行研究の把握、及び卒業論文の完成を目指すこと。									
授 業 計 画										
回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）		備考	回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）		備考	
第1回	卒業論文の構想	テーマの設定、先行研究、問題意識の把握			第16回	卒業論文の執筆	卒業論文の執筆、論証方法			
第2回	卒業論文の構想	テーマの設定、先行研究、問題意識の把握			第17回	卒業論文の執筆	卒業論文の執筆、論証方法			
第3回	卒業論文の構想	テーマの設定、先行研究、問題意識の把握			第18回	卒業論文の執筆	卒業論文の執筆、論証方法			
第4回	卒業論文の構想	テーマの設定、先行研究、問題意識の把握			第19回	卒業論文の執筆	卒業論文の執筆、論証方法			
第5回	卒業論文の構想	テーマの設定、先行研究、問題意識の把握			第20回	卒業論文の執筆	卒業論文の執筆、論証方法			
第6回	卒業論文の構想	テーマの設定、先行研究、問題意識の把握			第21回	卒業論文の執筆	卒業論文の執筆、論証方法			
第7回	卒業論文の構想	テーマの設定、先行研究、問題意識の把握			第22回	卒業論文の執筆	卒業論文の執筆、論証方法			
第8回	卒業論文の構想	テーマの設定、先行研究、問題意識の把握			第23回	卒業論文の執筆	卒業論文の執筆、論証方法			
第9回	卒業論文の構想	テーマの設定、先行研究、問題意識の把握			第24回	卒業論文の執筆	卒業論文の執筆、論証方法			
第10回	卒業論文の構想	テーマの設定、先行研究、問題意識の把握			第25回	卒業論文の執筆	卒業論文の執筆、論証方法			
第11回	卒業論文の構想	テーマの設定、先行研究、問題意識の把握			第26回	卒業論文の執筆	卒業論文の執筆、論証方法			
第12回	卒業論文の構想	テーマの設定、先行研究、問題意識の把握			第27回	卒業論文の執筆	卒業論文の執筆、論証方法			
第13回	卒業論文の構想	テーマの設定、先行研究、問題意識の把握			第28回	卒業論文発表	卒業論文の内容について			
第14回	卒業論文の構想	テーマの設定、先行研究、問題意識の把握			第29回	卒業論文発表	卒業論文の内容について			
第15回	卒業論文の構想	テーマの設定、先行研究、問題意識の把握			第30回	卒業論文発表	卒業論文の内容について			
評価方法及び評価基準	卒業論文への取り組み30% 論文完成度70%（卒業論文の基準で論文の完成度を的確に判断する）									
課題等	論文構想・方法、問題意識などについて考え、問題点を明確に提示すること。									
事前事後学修	先行研究を踏まえ、卒論テーマに即した資料蒐集に努力すること。									
教材教科書参考書	卒業論文のテーマに必要な文献資料、調査方法を指示。									
留意点	前期と後期、それぞれ六回以上欠席、または卒論指導を拒否した場合、卒業論文単位取得不可。									

科目名	卒業論文		科目ナンバリング	L-JSTH4-00. J	単位数 時間	4単位	対象 学年	4年	開講 学期	通年	
			科目コード	J41412		60時間					
区分	専門教育科目	必修	担当者名	畠山 篤			授業 形態	演習	単独		
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>キーワード：〔自分の発想・構想・推敲〕</p> <p>古代文学（上代と中古の文学）、口承文芸を研究対象にし、自ら問題を見つけ、解明していく。すなわち、発想を豊かにして主題を見出し、これを構想化して叙述し、これを推敲する。</p> <p>そして、これらの過程を限りなく反復する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-3に関連している。</p>										
到達目標	自分の発想を大切にし、明快な構想と叙述を心掛け、推敲ができる。										
授 業 計 画											
回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備考	回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備考
第1回	執筆の方法①	主題の決定、材料集め、並べ方、叙述、推敲の順を知る。				第16回	執筆⑪	章節の整合性を図る。			
第2回	執筆の方法②	ある程度実践を通して、以上の方法を知る。				第17回	執筆⑫	章節の整合性を図る。			
第3回	執筆の方法③	ある程度実践を通して、以上の方法を知る。				第18回	執筆⑬	章節の整合性を図る。			
第4回	執筆の方法④	ある程度実践を通して、以上の方法を知る。				第19回	執筆⑭	章節の整合性を図る。			
第5回	執筆の方法⑤	ある程度実践を通して、以上の方法を知る。				第20回	執筆⑮	章節の整合性を図る。			
第6回	執筆①	書ける章節からひたすら執筆する。				第21回	推敲①	諸説を確認し、推敲する。			
第7回	執筆②	書ける章節からひたすら執筆する。				第22回	推敲②	諸説を確認し、推敲する。			
第8回	執筆③	書ける章節からひたすら執筆する。				第23回	推敲③	諸説を確認し、推敲する。			
第9回	執筆④	書ける章節からひたすら執筆する。				第24回	推敲④	諸説を確認し、推敲する。			
第10回	執筆⑤	書ける章節からひたすら執筆する。				第25回	推敲⑤	諸説を確認し、推敲する。			
第11回	執筆⑥	書ける章節からひたすら執筆する。				第26回	推敲⑥	諸説を確認し、推敲する。			
第12回	執筆⑦	書ける章節からひたすら執筆する。				第27回	推敲⑦	諸説を確認し、推敲する。			
第13回	執筆⑧	書ける章節からひたすら執筆する。				第28回	推敲⑧	諸説を確認し、推敲する。			
第14回	執筆⑨	書ける章節からひたすら執筆する。				第29回	推敲⑨	諸説を確認し、推敲する。			
第15回	執筆⑩	書ける章節からひたすら執筆する。				第30回	推敲⑩	諸説を確認し、推敲する。			
評価方法及び評価基準	授業への取り組みと毎回の授業評価（30%）。論文の出来（70%）。論文の評価は配布している「作文心得」に基づく。すなわち、書式を守る、題名のつけ方、主題の明示、句読点の位置、段落意識の有無などである。										
課題等	毎日少しでも作文する。										
事前事後学修	常に本文・テキストに目を通すこと。										
教材教科書参考書	「作文心得」（畠山）を熟読する。										
留意点	研究室への来訪を歓迎する。										